

0235

妙高

部
長
官
印

軍艦妙高戦闘詳報

昭和十九年十月十四日 菲島沖海戦（於ミンダナオ海対空戦）

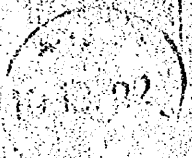
軍艦 妙高

第 十五 號

昭和十九年十月十五日

海軍功績調査部長殿
妙高機密第 三〇 號 一三

工員 手 日 換 付



妙高

目次

一	形勢	一	頁
二	計劃	一	頁
三	經過	一	頁
四	令達報告等	八	頁
五	戰果及被害	一〇	頁
六	我が兵力、現狀	一一	頁
七	功績	一一	頁
八	參考	一一	頁
(一)	戰訓	一一	頁
(二)	寫真	三〇	頁
(三)	天氣圖	三〇	頁

(目次終)

昭和十九年十月三日百捷號作戰中對空戰戰闘詳報 軍艦妙高

一 形勢 (略)

二 計劃

(一) 任務 企圖

(二) 我が軍ノ企圖 (略)

(三) 軍隊區分及主要任務

區分	兵力	主要任務
第一部隊 (第一夜戰隊)	4S 5S (最上級) 2Sd (時雨清霜) 1S	一 敵水上部隊撃滅
第二部隊 (第二夜戰隊)	3S 7S 10S 6ldg 4ldg (野分) 4dg (野分) 清霜	二 敵船團及上陸軍撃滅
第三部隊 (第三夜戰隊)	2S 最上 4dg (野分) 時雨	三 敵水上部隊牽制攻撃

(四) 作戰準備 (略)

三 經過



(一) 経過観真

捷一號作戦計畫ニ基キ第一遊撃部隊第一部隊ノ一艦トシテ行動十月
 二十日ブルネイ出撃シレイテ島方面ニ進撃中二十四日ミントロ海ニ於テ敵
 機動部隊艦上機約三十機ト交戦航空魚雷一本右舷後部機機室
 ニ命中爆發浸水傾斜速度力低下ス依リテ旗艦ヲ羽里ニ変更ス
 主隊ト分離命ニ依リ二十五日ゴロン湾ニ單獨回航應急処置實施
 上二十六日長波護衛トシニカニシテ向テ同地ヲ出撃セリ

(二)

天 月 日	時 刻	自 艦 ノ 戦 斗 経 過	友 軍 ノ 戦 斗 経 過
一〇・一八	一七三三	捷一號作戦ノ為ブルネイニ入港	捷一號作戦ノ為ブルネイニ入港
一〇・二〇	一三二七	捷一號作戦ノ為ブルネイニ入港	捷一號作戦ノ為ブルネイニ入港
一〇・二二	〇七五二	非高レイテ島方面ニ向テブルネイ出撃	非高レイテ島方面ニ向テブルネイ出撃
一〇・二三	〇六〇〇	艦内消或隊一配備トナス	艦内消或隊一配備トナス
〃	〇六三五	配置ニ就テ潜水艦	配置ニ就テ潜水艦
〃	〇六五五	艦尾ニ雷跡発見	艦尾ニ雷跡発見
〃	〇六五七	緊急右四五度ニ回頭回避ス	緊急右四五度ニ回頭回避ス

5

〇八三六	艦内哨戒隊配備別法トナス	
〇八三四	一斉回頭信号運動入法始ハ	
〇八二〇	〇度方向回〇〇〇米手敵機ヲ見火ヲ	
〇八一〇	三〇度方向三三〇〇米手敵機ヲ見	
〇八〇五	配置ニ就テ対応取用注意	
〇八〇四	隊ニ五接敵序列ニ上位置ス	
〇八〇三		大和五〇度方向敵飛行機ニ五機発見
一六二〇		大和四〇度方向潜水艦探知ス
一六一〇		隊艦隊列ニ長官大和ニ移乗
一四〇七		能代三三〇度方向潜水艦探知
一一三〇	艦内哨戒隊ニ配備トナス	
一一五六		島内三〇度方向潜水艦探知
一一一三	八〇度方向五〇〇〇米手敵機発見	
一〇五五	二機機射出	
〇八四八		羽黒一四〇度方向潜跡ヲ認め 能代三三〇度方向潜水艦探知
〇七三七		
〇七一五	射撃直衛ヲ爲シ機射撃	
〇六五八	爆撃機機射撃ハ(三機)	

〇八四五	配置ニ就テ 對艦戦ヲ	
〇八四七	一五〇度方向ニBB機ヲ認メ更ニBBヲ	
〇九三〇	シキモ六〇度方向ニ〇〇米ニ認メ	
〇九三一		大飛〇度方向ニ〇〇米ニテヲ辨知
〇九三三		金剛一〇度方向ニテヲ辨知
〇九四〇		艦隊速力ニ八節
〇九五一		秋霜八〇度方向ニ八〇〇米ニ潜水艦ヲ見
〇九五五		能成九〇度方向ニ潜水艦ヲ認メテ
一〇〇〇	艦内消成済ニ配備別法	
一〇二三		対艦一〇度方向ニ對艦戦ヲ
一〇三四		長門一〇度方向ニ對艦戦ヲ
一〇三六	配置ニ就テ 對艦戦ヲ	
	隊速力ニ四節トス	
	隊速力ニ増速ス	
	一〇度方向ニ敵艦ヲ認メ機ヲ發射	
	砲撃ヲ開始ス	
一〇二九	艦首方向ヲテ本艦ニ對艦戦ヲ機	
	ヲ録シ次ヲ本艦ニ傳ルヲ認メ急速	

一二一〇	船急進 注排水区劃ニ注水完了	
一二一〇	傾斜 上度トナル	
一二一〇	船緊急注排水区劃ニ一部(五至堂)	
	ニ注水始ム	
一二三八	損艦ヲ羽黒ニ變更主隊ト分離ス	
一二五八	配置ニ就テ 對空戦斗	大和ニ〇度方向ニ飛行機探知
一二〇六	八〇度高ニ敵機十機(F4)ヲ認めテ	
	砲撃開始(高角砲)	
一二〇八	敵機遠ニ引カル 砲撃止ム	
一二一〇	五至堂注水完了(三五〇噸)傾斜	
	八度トナル	
一二一二	五番砲塔(三三)ニ熔断施固不能	
一二一四	一二〇度方向ニ層撃機四機ヲ認め	
	砲撃開始(高角砲)	
一二一八	砲撃止ム	
一二二二	七〇度高ニ〇〇米敵機降氷ニモ探知	
一二二七	四度方向ニ潜水艦探知	
一二三〇	船緊急注排水区劃ニ燃料倉庫(三)ニ注	

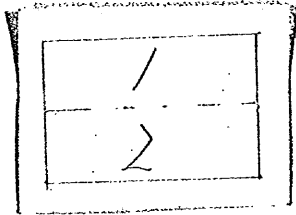
〃	一四三三	水始ハ(九〇噸)
〃	一四三一	左正横ニ備師ヲ認メ同旋
〃	一四五五	三〇度之〇〇米ニ敵艦ヲ見
〃	一四五七	配置ニ就キ射撃ヲ
〃	一三〇五	五番砲塔應急線設置完了電送ル
〃	一三〇八	隊形ヲトル
〃	一三一ニ	主砲他砲開始
〃		左舷ニ軸電線ト入出シ得ル最大
〃		速力一八節
〃		艇子係注水ニ制ニ注水完了頃
〃	一三三三	斜六五度トナル
〃	一三四〇	敵機ハ次ヲ遠リカルト主砲ヲ襲撃ス
〃	一四四三	艦内哨戒隊ニ配備
〃	一四五二	三兵員室排水終了
〃	一四五三	一〇度方向ニ潜望鏡ヲ見配置ニ就ク
〃	一四五二	高角砲砲臺始メ爆雷戦用意
〃	一四五三	一〇度方向ニ備師ヲ認メ同旋

一五〇二	砲臺止	
一九四〇	艦内哨戒隊ニ配備	
二〇三五	官油移動終了(三噸)傾斜三度	
二〇三三	注水量六五五噸 浸水量九〇噸	
二〇三三	配置三銃(潜水艦)	
〇二一九	左舷ニ哨跡発見 回避ス	
〇七四三	隊ニ配備 別法	
	入港後終日内外軸室ノ排水ニ	
	努ルモ效果ナク 防水蓋閉	
	鎖ス 尚右舷側バルチ破壊部	
	水中切断大部完了ス	
一一〇五		日中丸 倉橋入港
一三〇〇		沢風 清霜入港
一六三〇		共同丸 入港 (浮運船)
一八三〇		沢風 清霜出港
二一三〇	十兵員室排水開始	

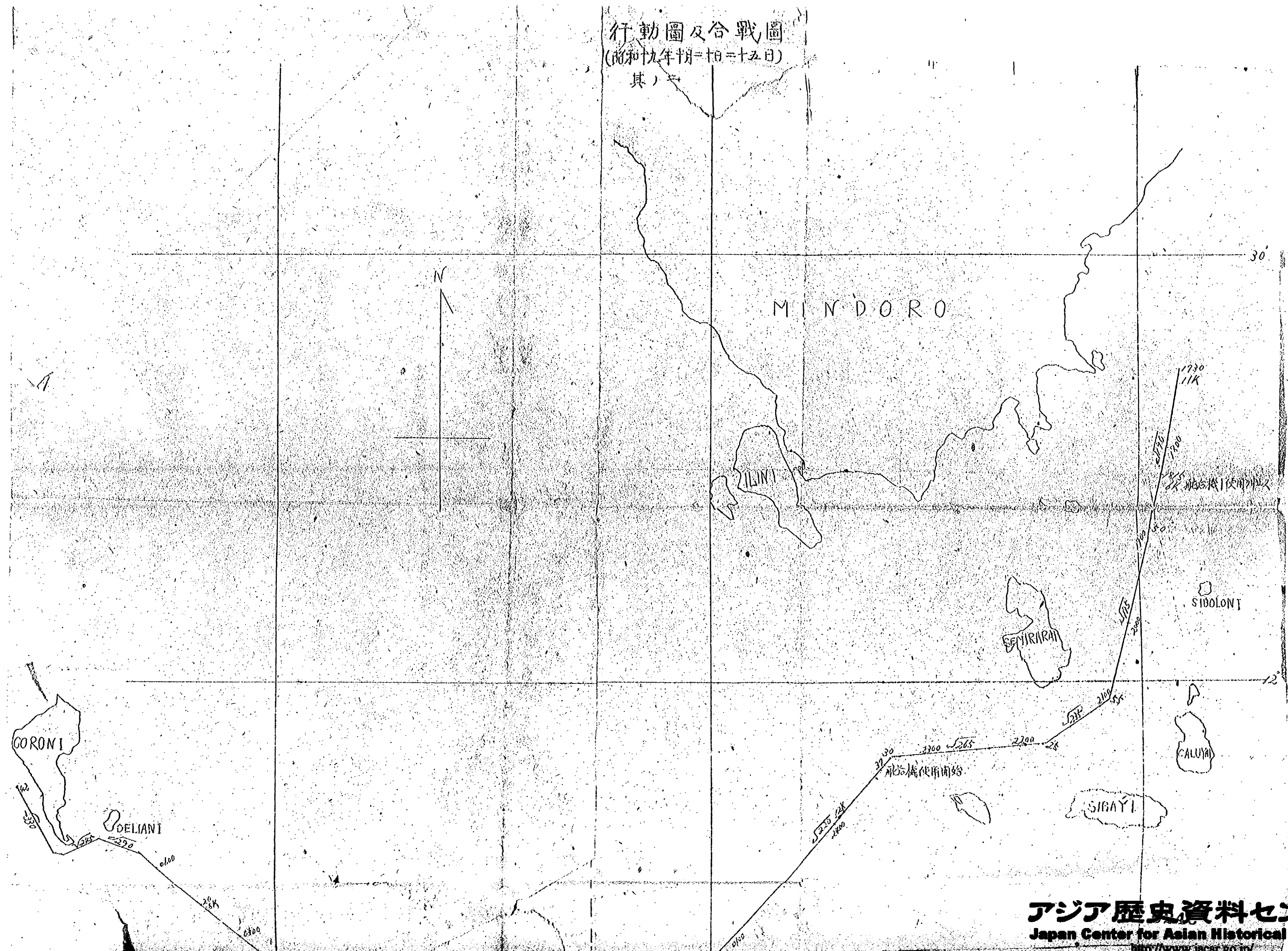
(三) 作戰ニ影響有セル事項
 決戦ニ参加シ得ズ
 (四) 行動圖及合戦圖

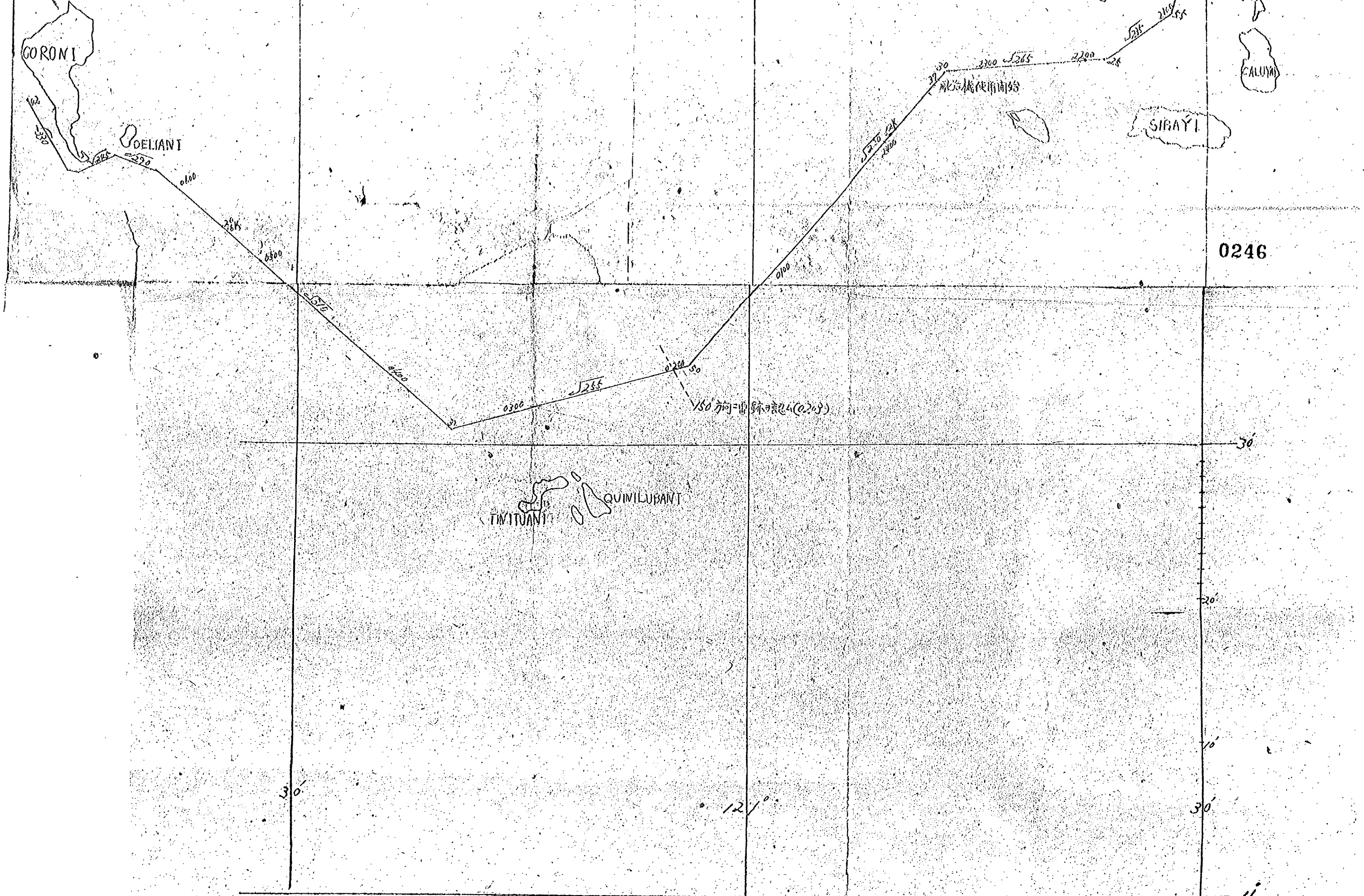
一〇一五	排水終了補強並に浸水部是防開始	
〇三〇〇	右作業終了	
〇九〇〇	船側バルブが破壊部中切断殆ど	IBコロシ泊地東方八五運ニ艦上機
〇九一五	配置ニ就ク対空戦ヲ	八〇機ノ改出ヲ度ク
	敵艦上機ニ機一ニ〇度方向ニ認め	
〇九三〇	敵機見失フ	
〇九三五	艦内哨戒隊ニ配備別法	
一一〇四	一ノ〇度方向B24九機ヲ認め	IBコロシ泊地南方ヲB24十数機改出度ク
	配置ニ就ク對空戦ヲ	
一一一六		長波初春初霜入港
一一二二	コロシ港出港ルルニ向テ長波護衛	
一一四三	艦内哨戒隊ニ配備別法	

分割撮影ターゲット

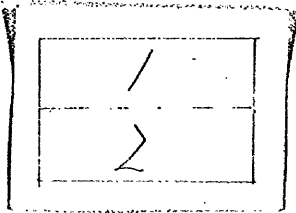
分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 10 月 21 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

行動圖及合戰圖
 (昭和十九年十一月十五日)
 其)



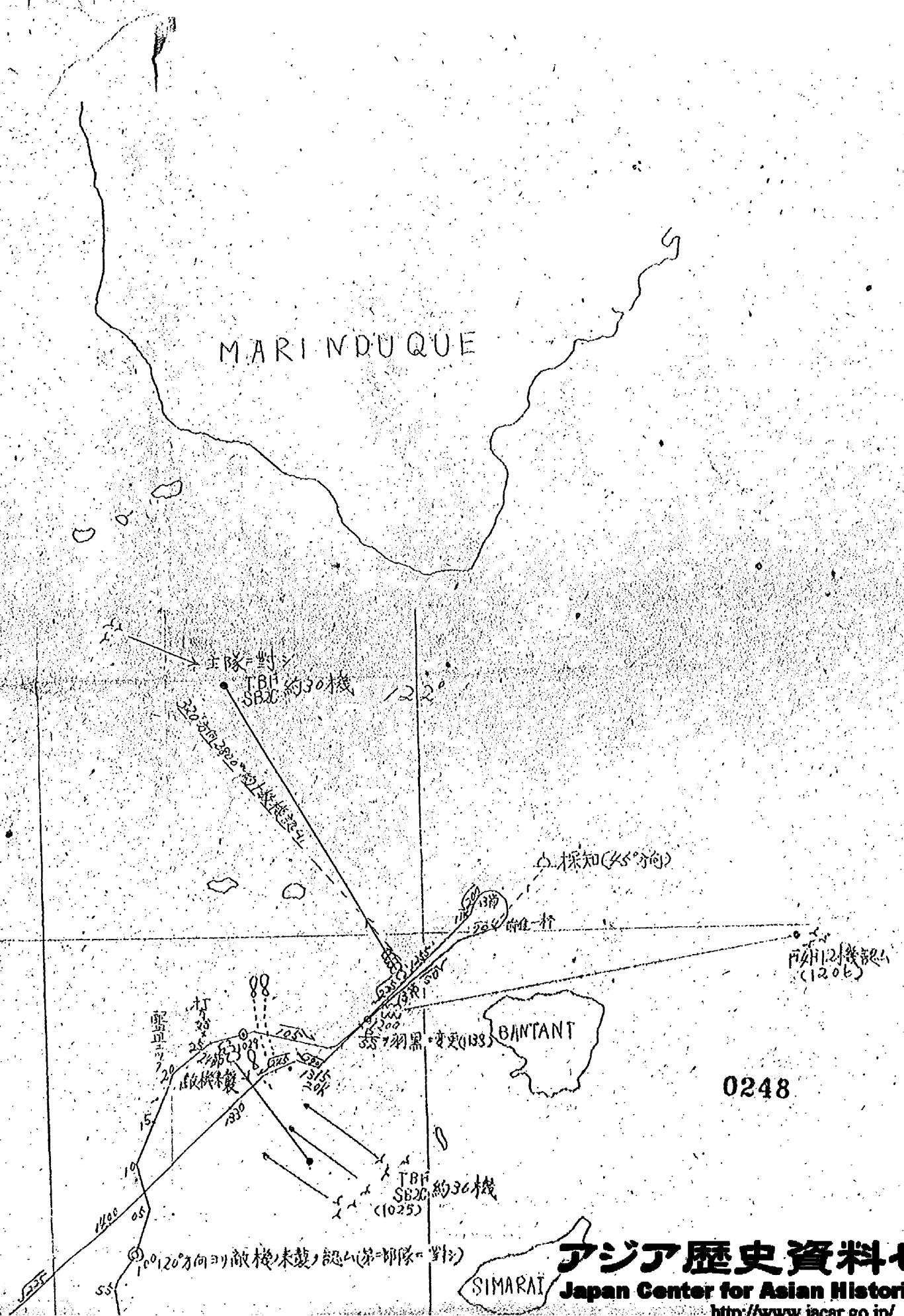
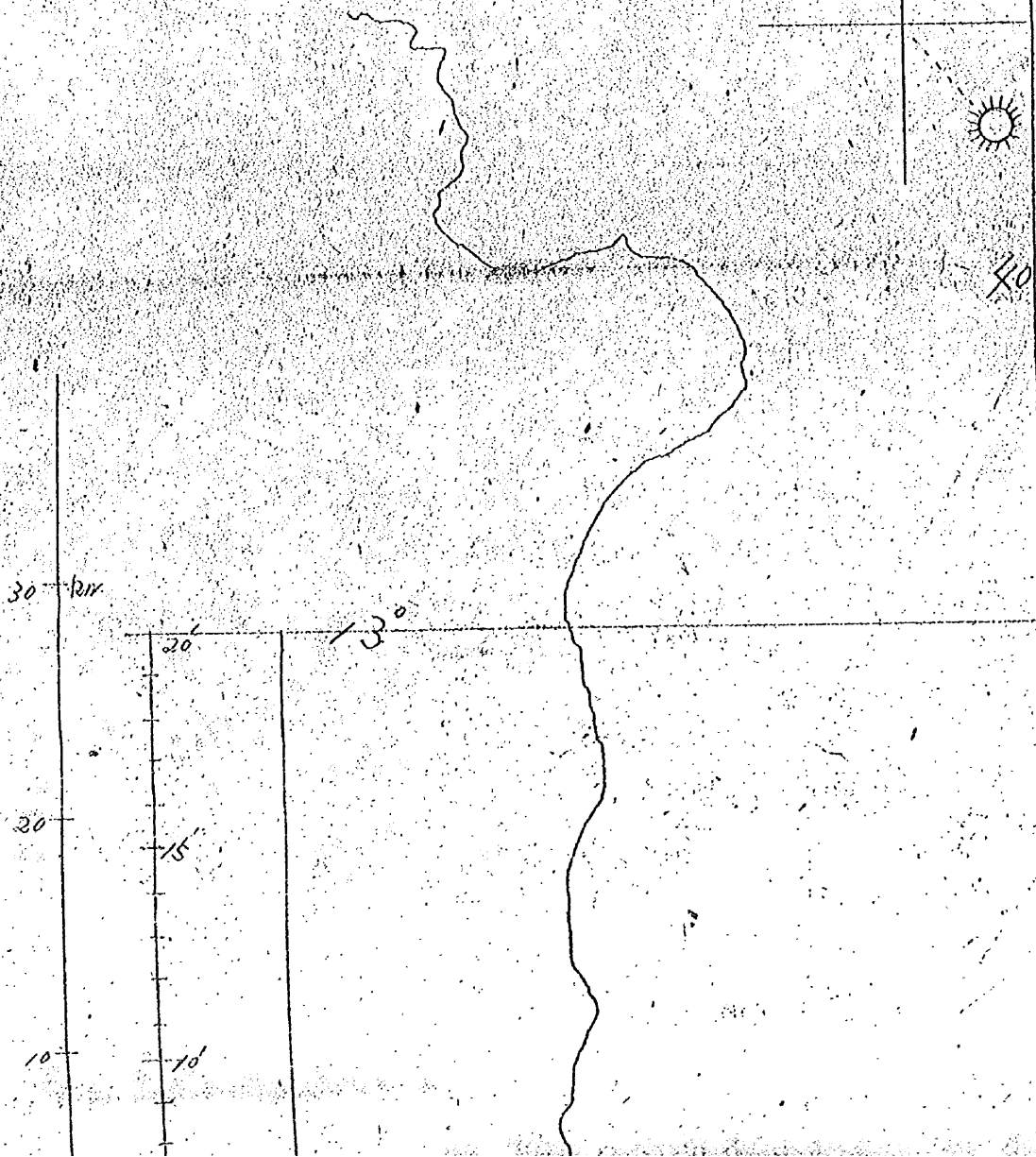
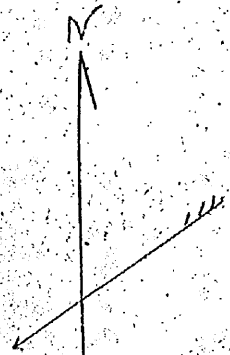


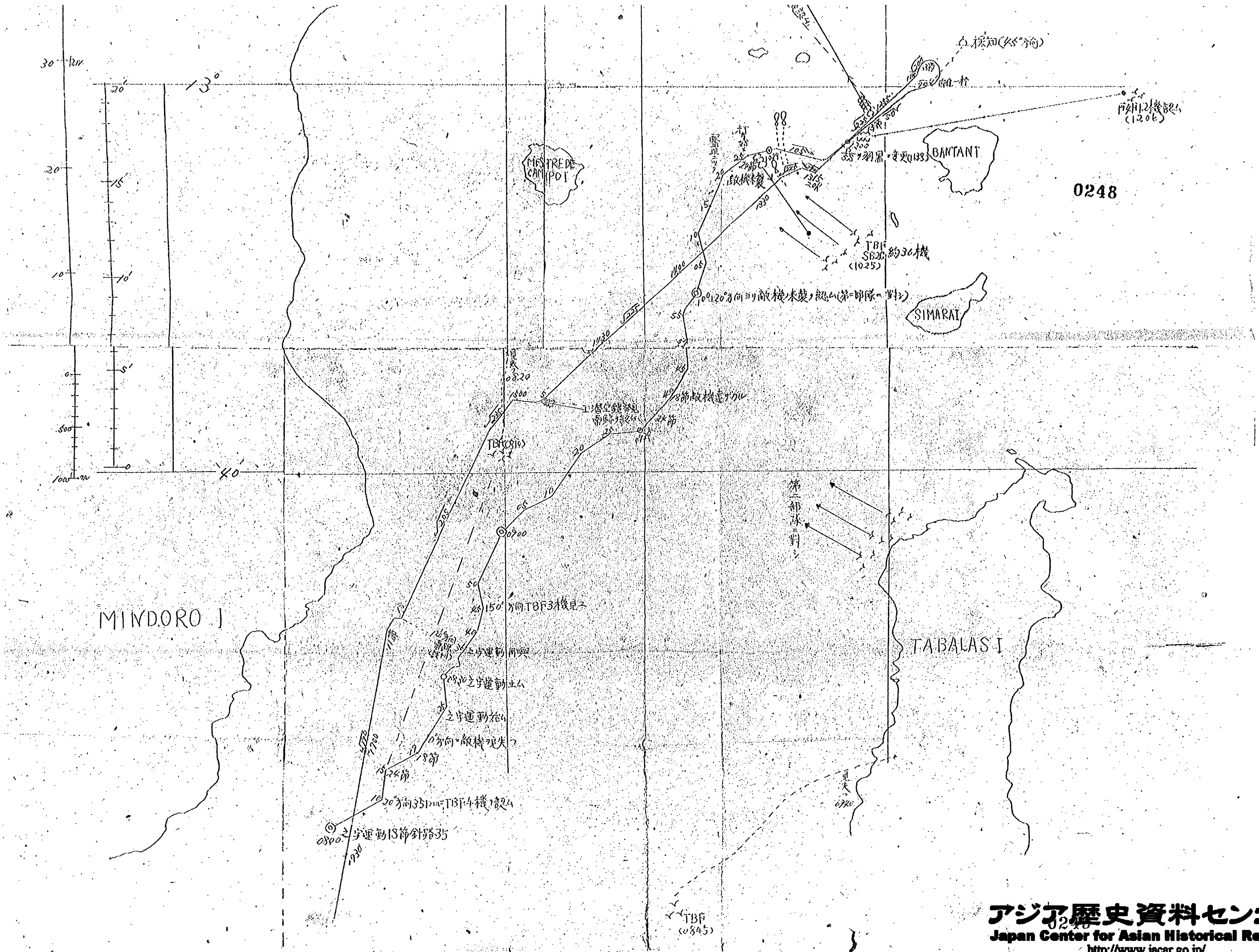
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 21 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形文夫 (印)</p>	

行動圖及合戦圖
 (昭和十九年十月十四日)
 其)

天候 BC
 雲形 Ci-St
 雲量 8
 雲高 6000





四 令 達 報 告 等

八月三日 YB	八月三日 YB	敵哨戒機當隊ヲ發見セル旨大ナリニ一日日出 時ヨリ對空警戒第二配置トナシ持ニ對空警戒 ヲ嚴ニセヨ	號
八月五日 KdB	八月六日 KdB	明八日〇九三〇將旗ヲ瑞鶴ニ復歸ス	電無
八月九日 GF	八月九日 GF 摩下	本隊一七〇一ニ三〇將旗ヲ高雄ヨリ新竹ニ移揚セリ	電無
八月九日 GF	八月九日 GF	YB GF 電令你第三五三號 ハ速ニ出撃ガルネイニ進出セヨ	電無
九月一日 YB	九月十五日 YB	機密第一遊撃部隊命令你第一號第一遊撃部隊 捷號作戦要領(内容略)	書文
八月四日 GF	九月五日 GF	機密聯合機隊命令你第八六號捷號作戦航空 戰準則(内容略)	書文
八月一日 KdB	八月六日 KdB	機密機動部隊命令你第七六號機動部隊捷號作戦要 領(内容略)	書文
發元時	受知時	令 達 報 告 等	種別

1320

done to

done to

done

done

done

10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日
P/YB	P	P	P	P/YB	IYB	IYB	P/YB
SS	SS	SS	SS	SS	SS	SS	SS
長官岸波艦中ニシテ火和便來迄本職一時	島波ヲSS司令官ノ指揮下ニ入ル	第一偵察隊 妙高羽黒各一機 第三偵察隊 妙高羽黒各一機 二最派中ノ第一偵察隊飛行機ハ艦長所定依リ 定時發艦直接サシホ出ニ移動セムベシ	SS信令第五一號 機務部遊撃部隊命令依第(一)號(一)機捷號作戦要 領中改正及追加)ニ依リ基地派遣偵察隊派出區分 並ニ行動ヲ左ノ通定ム 一第一偵察隊 妙高羽黒各一機 最六二機 第三偵察隊 妙高羽黒各一機	SS信令第五一號 機務部遊撃部隊命令依第(一)號(一)機捷號作戦要 領中改正及追加)ニ依リ基地派遣偵察隊派出區分 並ニ行動ヲ左ノ通定ム 一第一偵察隊 妙高羽黒各一機 最六二機 第三偵察隊 妙高羽黒各一機	作戦命令(内容略)	黎明時シロバン方面ニ侵入新在海ニ兵力ヲ撃滅 シタル後敵攻略部隊ヲ殲滅セントスルニ際シ執ルハヤ 作戦命令(内容略)	機務部遊撃部隊命令依第(一)號(一)機捷號作戦要 領中改正及追加)ニ依リ基地派遣偵察隊派出區分 並ニ行動ヲ左ノ通定ム 一第一偵察隊 妙高羽黒各一機 最六二機 第三偵察隊 妙高羽黒各一機
信	信	信	信	信	書	書	書

〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五
〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五
敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五	敵艦の機約三の機未獲之ヲ撃退ス 〇月二四日 〇月二五 〇月二四日 〇月二五
電無	電無	電無	電無	電無	電無	電無	電無

0253

<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>
<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>
<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>
<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>	<p>四月二四日 一三一六</p> <p>長波</p>

妙高 二月二十五日 二二一五	長波 二月二十五日	コロンボ着	電
妙高 二月二十五日	長波	コロンボ西側泊地ニ来レ二月二十六日午后出港、豫定	電無
妙高 二月二十六日 P/S	妙高 二月二十六日	當隊夕刻コロンボ入港、出港ヲ待テ	電無
妙高 二月二十六日 九三二	妙高 二月二十六日 P/GKF P/YB	SBXCニ機、コロンボ泊地南方ニ五軒東方ニ去ル、九三二	電無
妙高 二月二十六日 五〇	妙高長波清霜 二月二十六日	YB電令作第(三四)號 妙高長波清霜ハ速ニコロンボ發アル、イニ向ハ	電無
清霜 二月二十六日 二二一	妙高 二月二十六日	本艦補給後ハ五〇〇マニラ發、YB電令作(三四)號ニ應ズ ル如ク行動ス、貴艦ノ行動豫定知ラサレ度	電無
IYB 三月九日	清霜 浜風 三月四日 一三四五	浜風、能代警戒任務及YB機密第(三四)番電ニ 依テ清霜ノ任務ヲ取消、現任任務終ラハ速ニYBニ合同 セヨ合同ニ後令	電無
妙高 二月二十六日 一四五	妙高 二月二十六日	妙高長波(二六)日(一三)〇〇〇ノ灣發新南群島ニ接 航、南下ス速力(一)節 二六日(一)〇〇〇ノ(二)度(四)分(日)一八度(一)三五分 二七日(一)〇三〇ノ(一)度(一)分(日)一七度(一)五分	無

db

五 戦果及被害

(一) 戦果

(二) 撃墜

(三) 撃破

(四) 被害

(五) 船体

(六) 被害状

二二三〇ハ九度〇分四一六度三三分
六日〇六〇ハ八度〇分四一五度四〇分
穂巻瀬ノ西方ヲ廻リ十九日午前ブルネイ着ノ豫定

電

二機
三機
機銃ニ依ル

被害状	状況	原因	程度	処置ノ概要及之重要點	好問記	事
二三番七〇巡視艇 後壁ヨリ二五人番七〇 公船機室後壁ニ至 ル船側外敵ノ複雑 破孔(長サ十五米巾五 米)及二三番七〇 令容消毒室)ヨリ	十月二十四日二九 頃二五番七〇船 別表及及別圖 ノ通	傾斜(船)	浸水箇所 十二度半 浸水量(最大) 約六〇〇丁	浸水處置 傾斜復元 迅速注排水区劃注水 自(四〇分)約五分)	別表及及別圖 ノ通	

二七番(一)治康
寔)二至八船側餘沈
落切損又此緩多
数

トリ山(後部)
八七四種
増加吃水
五七種

二破損箇所
一三番(一)ヨリ天
五番(一)ヨリ至外
飯ノクシ出又
別表第一参照
其他別表第二
ノ通

四船舷急流排水區劃ノ部
(五推定)一法水(五〇丁)
傾斜八度トナル
(自一三〇約五分)
三舷線備法水區劃(各料
倉庫)一法水(九〇丁)
傾斜六五度トナル
(自一三〇約五分)
(至一三〇約五分)
四並池移動(船ノ船)
別表第一ノ通
傾斜三度トナル
(自一〇四約九時間)
(至一〇四約九時間)
五重量物移動投棄
別表第一ノ通
(自一〇三約九時間)
(至一〇三約九時間)

三破損處置
一船側ノレ部水中重氣
切斷(二米又四米三枚)
(自一三〇約五分)
(至一三〇約五分)
其他別表第一ノ通

別表第一

浸水箇所	箇箇	所	處置(第一次作業)
一 船後機室(漏水) 舷側破孔及一部復水器ヨリ			入室不能排水不能隣區探知終遮防
二 船巡航室(漏水) 舷側又ハ船後機室ヨリ		右	同
三 船前機室(浸水量約三〇〇丁) 船後機室隔壁及船巡航室前壁風路及注油 管ヨリ(油溜クシクヲ経テ)			大排水ヲ實施シ當夜及未檢テ遮防漏水ニ 時等ノ程度トナル (自一〇三〇約七時間)
四 後部發電機室(漏水) 舷側又ハ船後機室ヨリ			發電機員進室後防水扉閉鎖入室不能 排水不能
五 第三兵員室(浸水船側ハ深サ二米ニ達ス) 船側銃脱銃弛緩ヲ為傾斜時浸水			毛布當夜等ニテ遮防ノニ移動ボツル(人力)ニ テ排水汲取(自一〇五〇約四時間)
六 第四兵員室(漏水) 船側銃弛緩ノタメ			人力ニテ排水(汲取) (自一〇五〇約一時間)
七 兵員烹炊所(約二丁) 塵芥捨孔閉塞不充分ヨリ			塵芥捨孔閉塞(閉締)ニ汲取排水
八 食器消毒室			

九被服庫

〇糧食小出庫

一運用品主倉庫

二第一電氣倉庫

三電氣工場

四第十兵員室(約一〇〇丁)

船前履下床甲板鉄締部、漏水及後部發

電氣室入口及給排氣口ヨリ

五第十兵員室(僅ニ漏水)

船内軸室入口ヨリ

六第四砲塔彈庫(僅ニ漏水)

七第四砲塔火藥庫(同右)

八第四砲塔彈火藥供給室(同右)

九第五砲塔彈庫(同右)

一〇第五砲塔火藥庫(同右)

一一第五砲塔彈火藥供給室(同右)

側壁鉄締部弛緩ヨリ

一二主管制服室(僅ニ漏水)

側壁鉄締部弛緩ヨリ僅ニ漏水

採取排水
(自一四〇〇約三時間)

海水ポンプ使用排水セルニ排水不能

(自一九〇〇約七時間)

船内軸室入口蓋閉鎖ニテ遮防

(自一四〇〇約六時間)

遮防ノ上予押ポンプノ入力ニテ汲取

(自一〇五〇約一時間)

汲取遮防

<p>船側鉄絲部及浸水管所通過ノ電線ヨリ</p>	
<p>三六番電線通路 (漏水)</p>	<p>入空不能排水不能</p>
<p>三九番電線通路 (漏水)</p>	<p>入空不能排水不能</p>
<p>三三船内軸室 (漏水)</p>	<p>防水蓋補強被防 (自二〇〇。約三十分間)</p>
<p>三六船外軸室 (漏水)</p>	<p>入空不能排水不能</p>
<p>三後部船横走通路 (漏水)</p>	<p>同</p>
<p>三急速注排水區劃 (防ノ十七)</p>	<p>右</p>
<p>三同 右 (防ノ十九) (漏水)</p>	<p>同</p>
<p>三船側十三番重油タンク (浸水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側十五番重油タンク (浸水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側十七番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側十九番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側二十一番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側二十三番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側九番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側十一番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側十三番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>
<p>三船側十五番重油タンク (漏水)</p>	<p>未排水</p>

<p>一第三兵員室 甲板隆起支柱三本 船側外板同然</p>	<p>船材補強 下部補強箇所(十本) 毛布當板着水返防鉄花木栓挿入</p>	<p>破損箇所 第一級作業</p>	<p>別表第六</p>	<p>四二下部二三番 重油タンク (漏水) 未排水</p>	<p>四一下部二五番 重油タンク (漏水) 未排水</p>	<p>四二上部 九番 重油タンク (漏水) 未排水</p>	<p>四三後部 一番 重油タンク (浸水) 未排水</p>	<p>四四一 番 真水タンク (漏水) 未排水</p>	<p>四五一 番 豫備真水タンク (漏水) 未排水</p>	<p>四六三番 真水タンク (漏水) 未排水</p>	<p>四七八ルケ (漏水) 未排水</p>	<p>四八八ルケ (漏水) 未排水</p>	<p>四九八ルケ (漏水) 未排水</p>	<p>五〇八ルケ (漏水) 未排水</p>	<p>五一八ルケ (漏水) 未排水</p>	<p>五二空 (漏水) 未排水</p>
---------------------------------------	---	-----------------------	-------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	----------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------

<p>甲板取付部鉄板及鉄頭切損多数</p>	<p>(自 11.00 約四時間)</p>
<p>第十兵員室 甲板壁之隆起船側外板及船後機室後壁同室甲板取付部鉄板脱落多数 風路(後部發電機室ニ至ルモノ)亀裂</p>	<p>被害箇所排水不能付隣區補強</p>
<p>第十一兵員室 前壁十兵員室浸水ニ依リ煙ニ膨出 甲板發電機室浸水ニ依リ僅ニ膨出一</p>	<p>角材補強 補強箇所(八ヶ所) 神強箇所(七ヶ所) 發電機室ニ (自 11.00 約九時間)</p>
<p>四船前機室後壁 船後機室船巡航室浸水ニ依リ膨出</p>	<p>角材補強 補強箇所(九ヶ所) (自 11.00 約九時間)</p>
<p>別表第三 重油移動表</p>	
<p>移動 動 タ シン ク</p>	<p>被 移 動 タ シン ク 移動量</p>
<p>後部豫備三五七九十番重油 タ シン ク</p>	<p>後部豫備四八番戰時後部番重油 タ シン ク 一七二丁</p>
<p>二二部 五七番重油 タ シン ク</p>	<p>二下部十四十八番重油 タ シン ク 一三丁</p>
<p>三二部九番下部九三番重油 タ シン ク</p>	<p>三前部豫備高戰時前部番重油 タ シン ク 四六丁</p>
<p>四前部 三番重油 タ シン ク</p>	<p>四下部十四番重油 タ シン ク 八丁</p>
<p>計</p>	<p>三三八丁</p>

別表第四

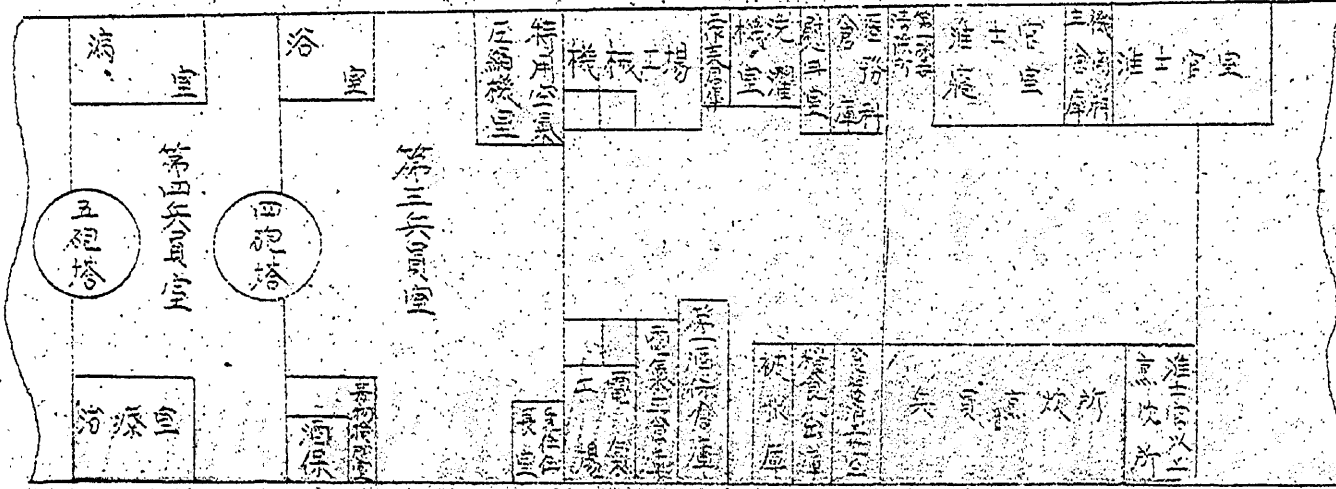
重量物移動表

米麥及五依第(及火銃)第万ノノ、存用約五符(個)飛行機、
金屬材料約(磁)飛魚雷十三本其他雜件、移動、飛創製備、約(木)板、
葉

別圖第一(浸水箇所)

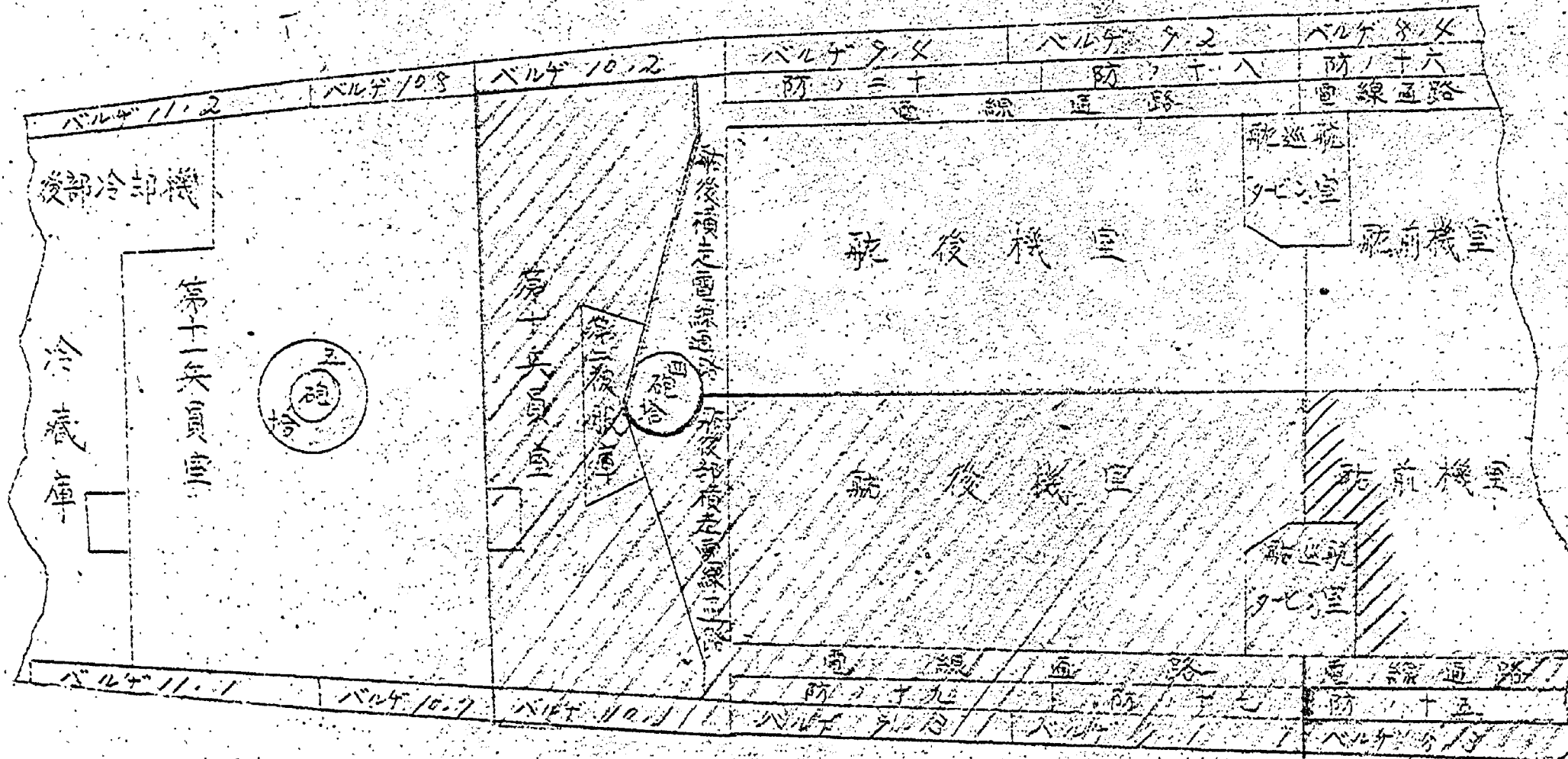
中甲校平面圖

//// 浸水箇所
//// 漏れ箇所



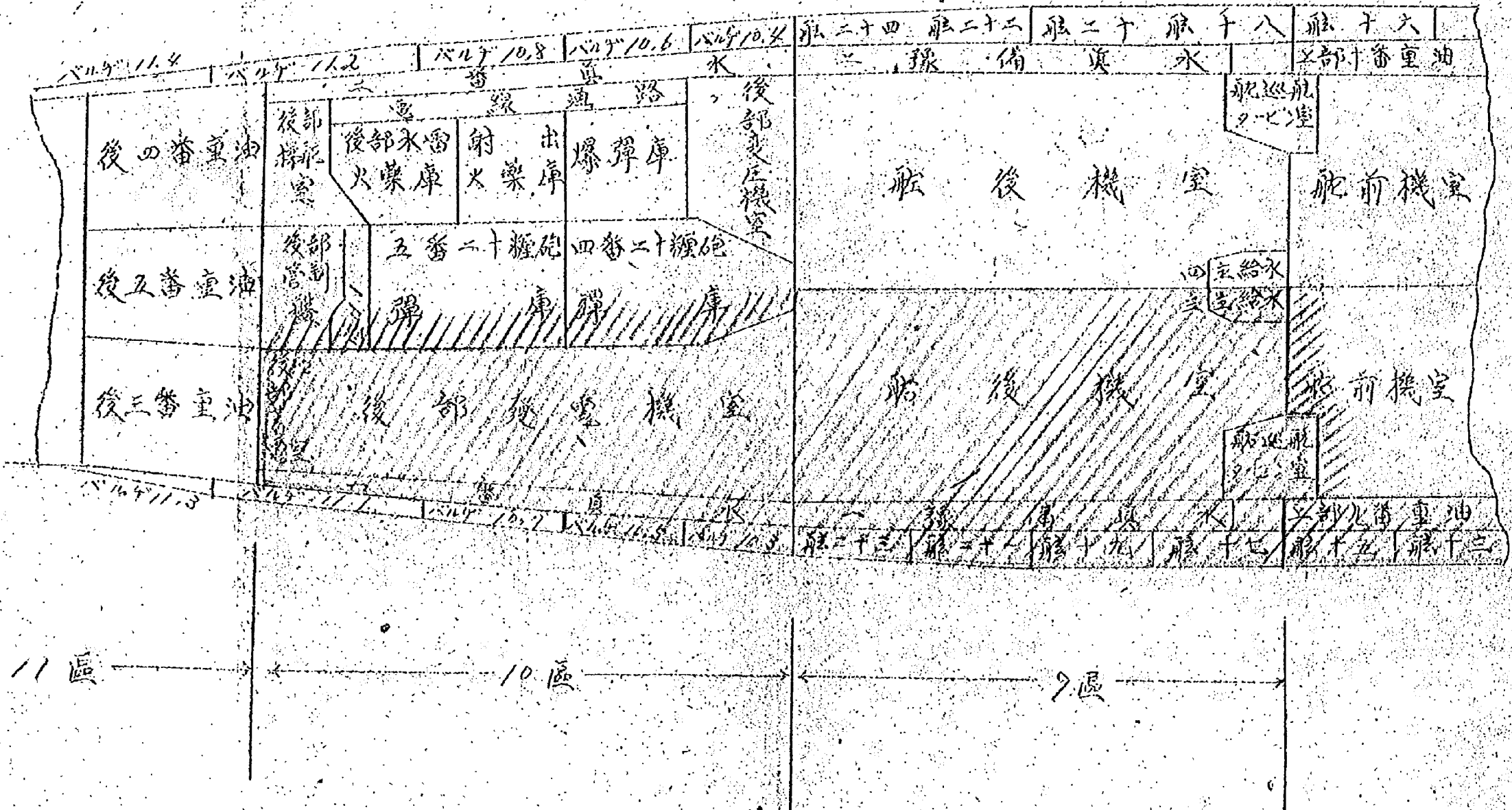
0262

下甲板平面圖

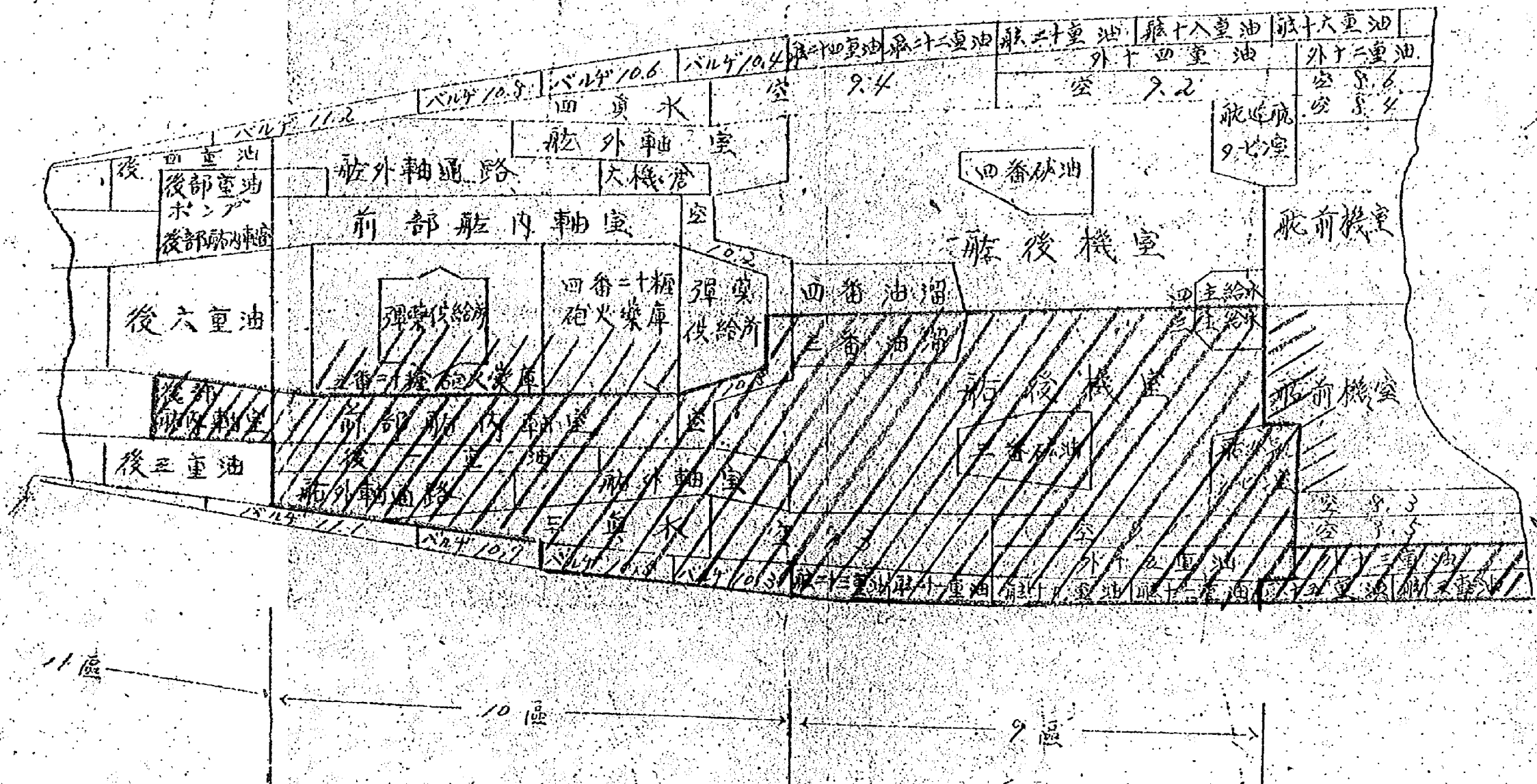


0263

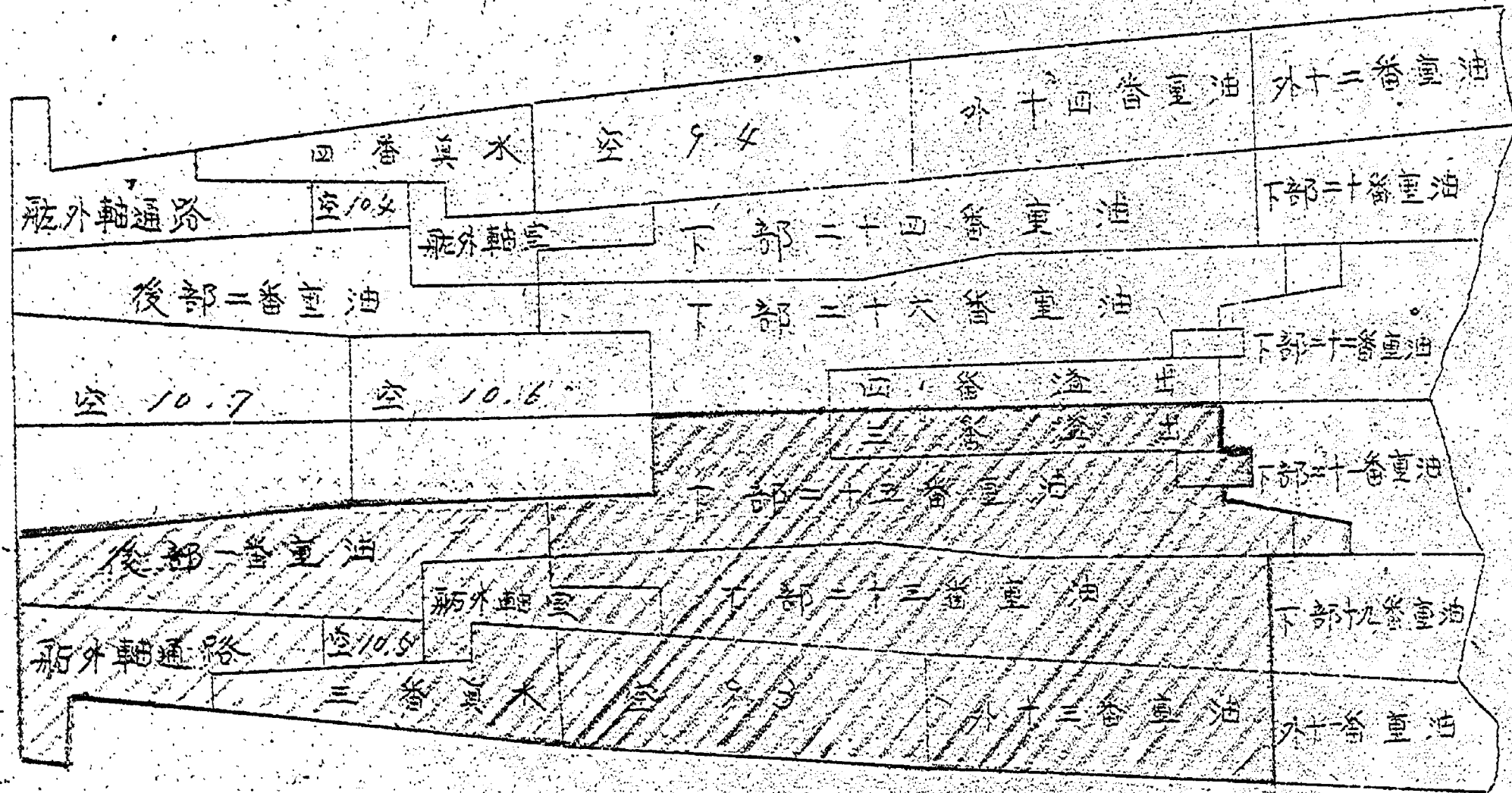
船 艙 甲 板 平 面 圖



船艙平面圖

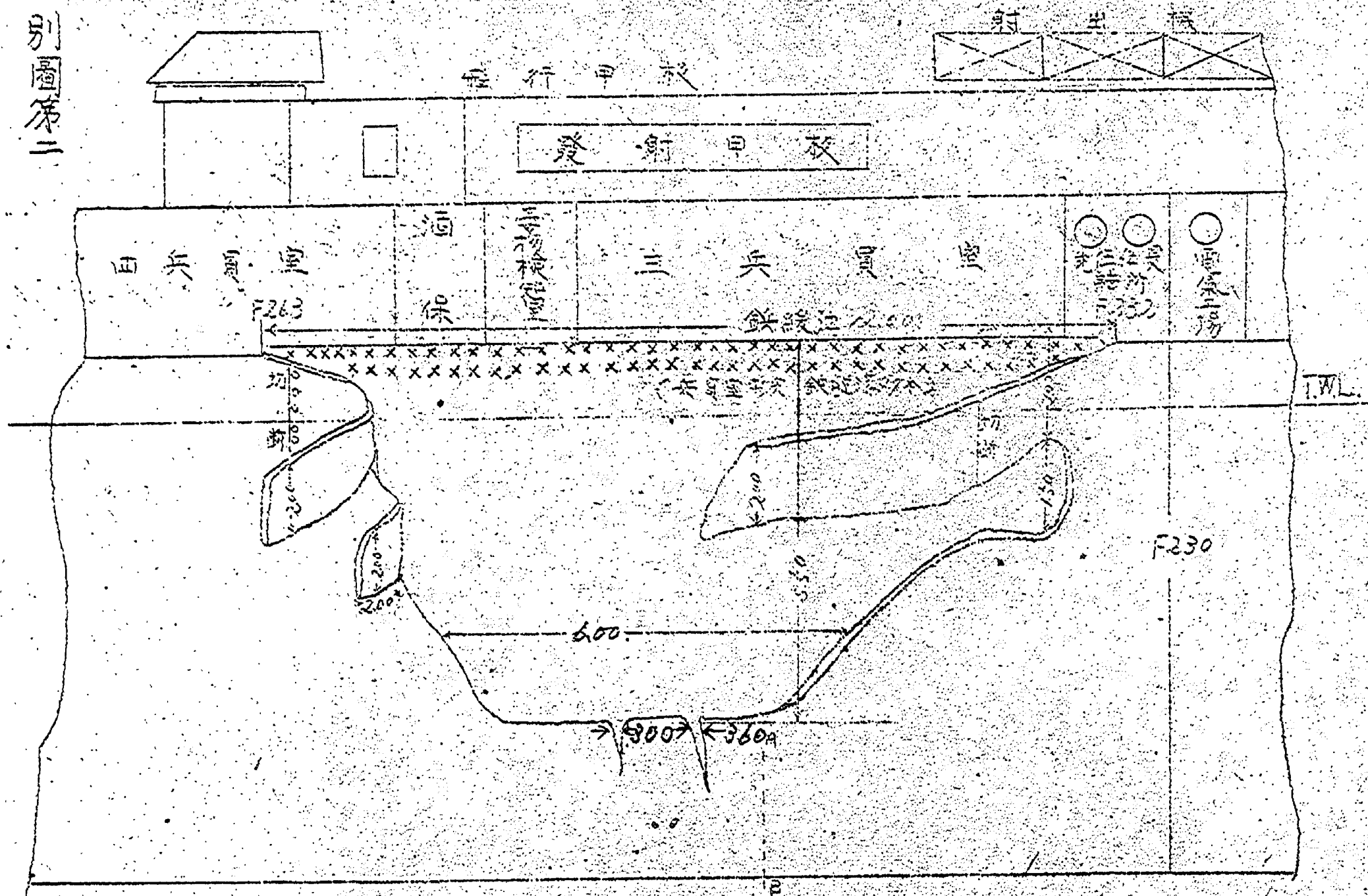


二重底平面圖



0266

別圖第三

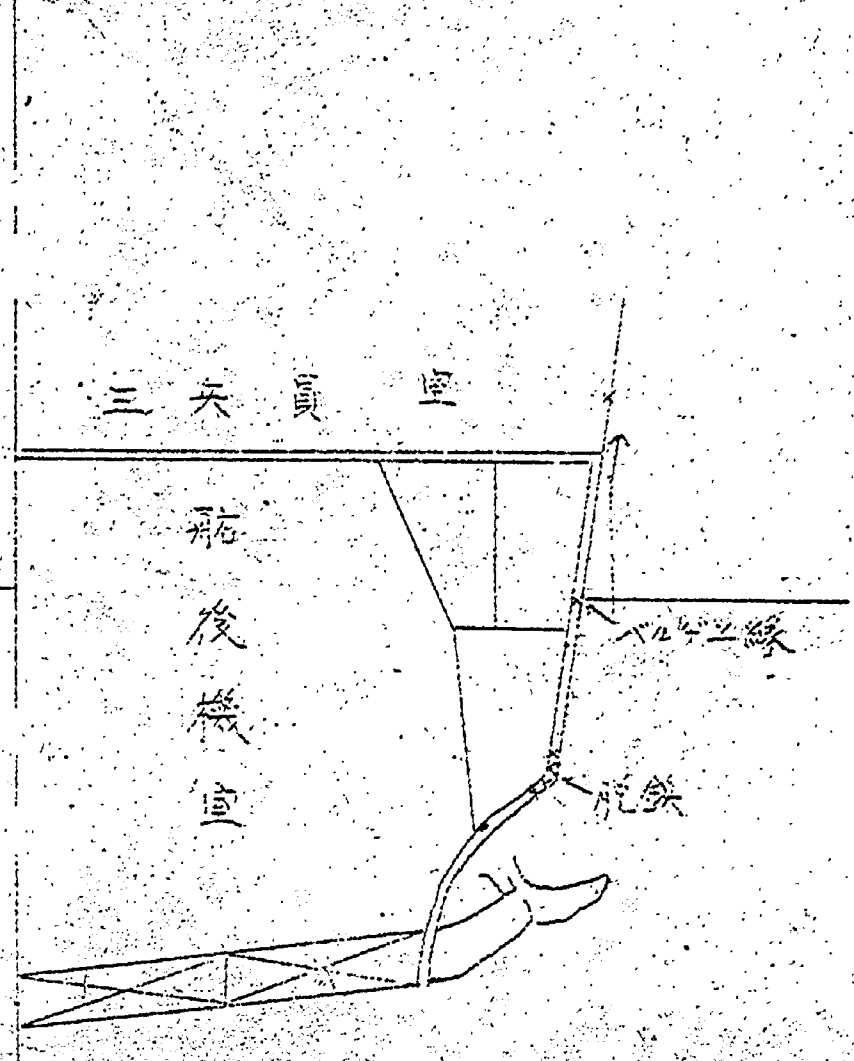
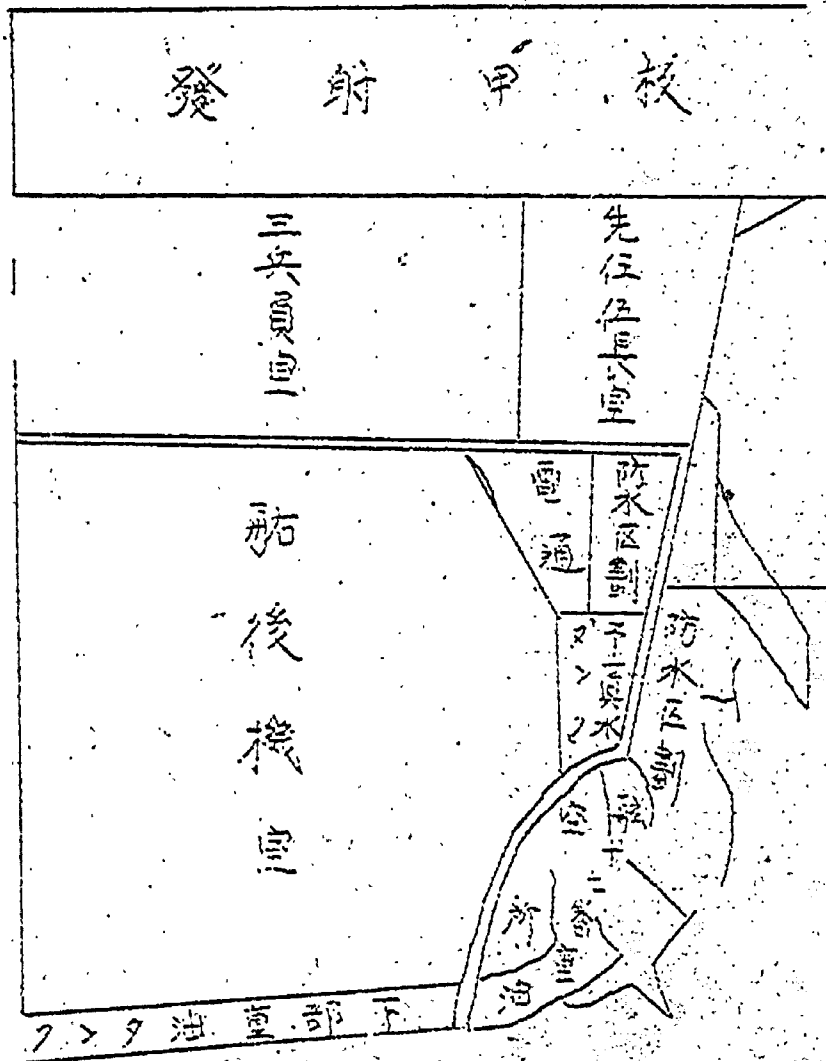


0267

0268

F 232 切斷 艇ヨリ見ル

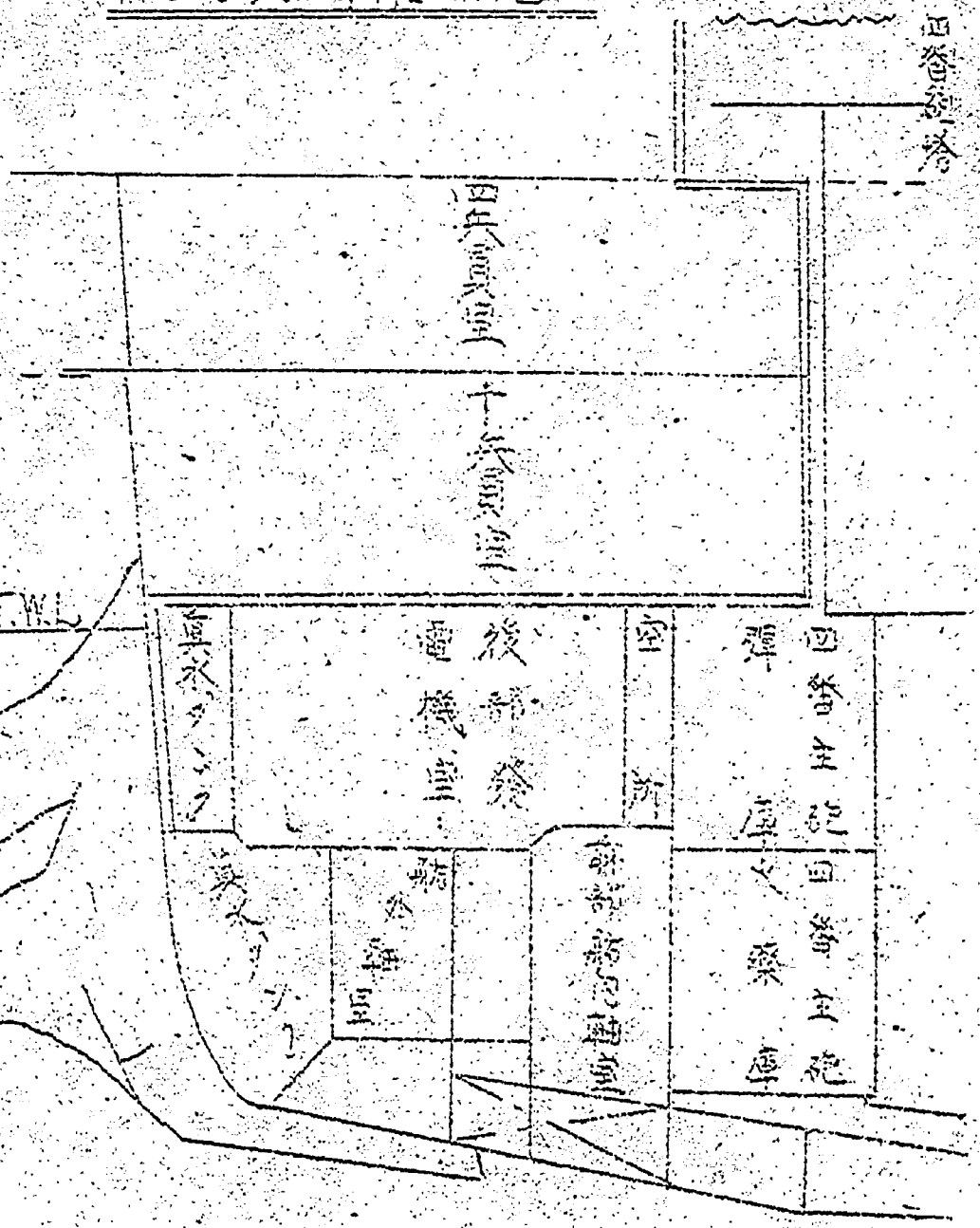
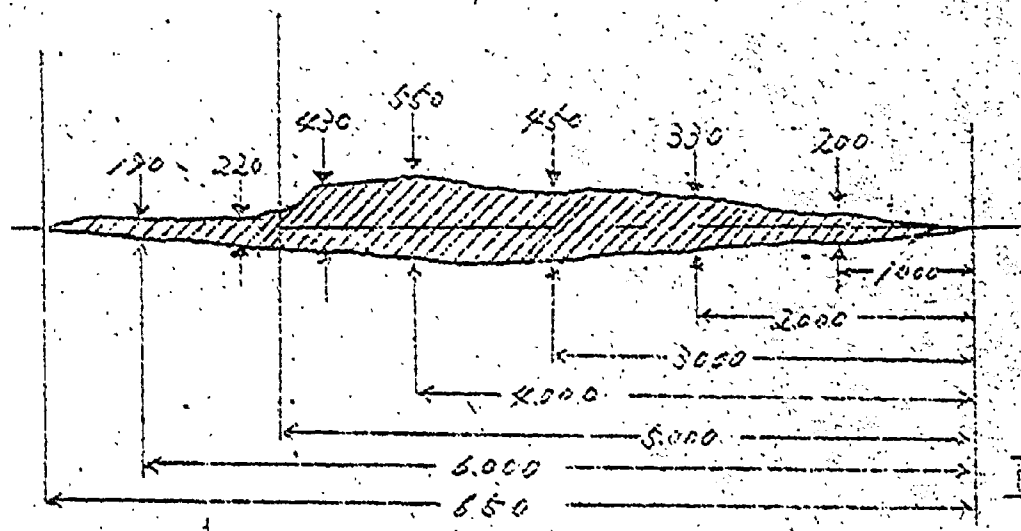
F 244 切斷 艇ヨリ見ル



0268

防禦甲板膜鉄=依ル喰違破孔圖

F-263 切断艦明見少

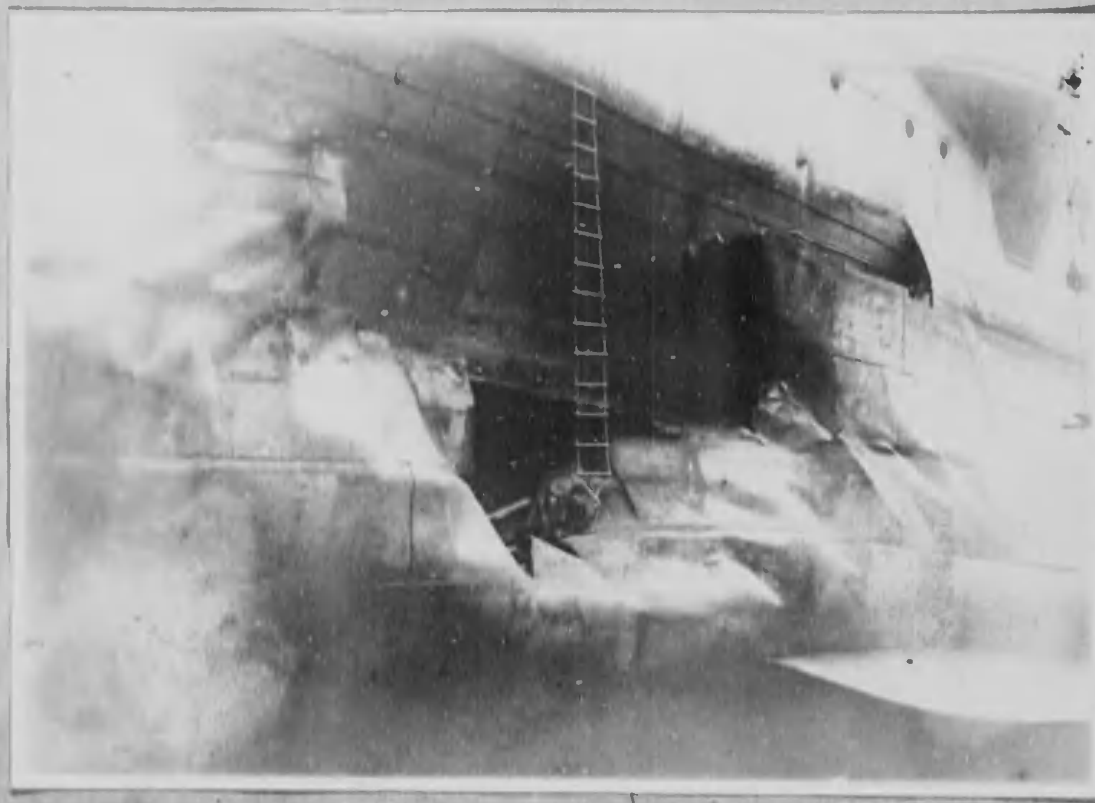


上圖へX部割取

0269

別圖房三

被害箇所外観写真



0270

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

兵器

砲術科

- (A) 主砲道防震装置以下震動防止用支基留螺子十六個中十三個折損尚螺子狹リシタメ支基屈曲約五耗ノ遊隙ヲ生シ信照準装置各部ノ遊隙大ナル
- (B) 震動大ニシテ防震發條折損ノ疑ニテリ信照準開放檢査ヲ要スルモノト認ム
- (C) 九六式二十五耗ニ聯裝機銃一基及九六式二十五耗單裝機銃一基爆風ニ依リ毀損使用不能
- (D) 九六式二十五耗機銃ハ側彈藥室一個同木製二個同彈藥室改六個同彈倉二型五六個同銃架要具筐一個同銃身要具筐一個同環型照準器四個同教練用彈藥包三〇個
- (E) 四五番彈火藥庫及同給藥室隣接區劃浸水ノタメ填隙部ヨリ漏水
- (F) 電線通路浸水電路短絡ノタメ使用不能箇所左記ノ通
- (a) 豫備方位盤關係
- (b) 後部砲群ニ至ル信發信器電路(通信電路)
- (c) 後部砲群ニ至ル施圓角度受信器電路
- (d) 後部砲群ニ至ル九八式發砲時限器使用除外標示灯電路
- (e) 豫備指揮所關係

- (1) 後部砲群至指揮官號令通報器發信器電路
 - (2) 艦橋豫備指揮所間、艦長號令受信器電路
 - (3) 艦橋豫備指揮所右舷直通報受信器電路
 - (4) 後部砲群豫備指揮所系整備片電路
 - (5) 左右遠近觀測發受信器電路
 - (6) 分火、際豫備指揮所後部砲群系發射通報發受信器電路
- (C) 測的所關係
- (1) 測的所發信の變針ランプ測的所標示灯電路
 - (2) 三番高角砲俯仰及方向盤通信電路
 - (3) 防空指揮所信管受信器電路
 - (4) 高角砲動力電路及揚彈藥機電路（此電路使用不能）
 - (5) 主砲動力電路後部砲群航路故障停止負荷大
 - (6) 三番管測器電源電路故障（此電路）
- 必水雷科
- (A) 舷外電路右舷中部約十米切斷全回路使用不能
 - (B) 艦後機室浸水ヨリ武式吸入型空氣壓縮機一基使用不能
 - (C) 右舷電線通路浸水ノ爲右舷斜進電路使用不能（三番艦管）
- (3) 内務科

10

- A) 第三區系主電路浸水使用不能
- B) 五號室注水ニ依リ四番電線通路電路接屬箱燒損(使用不能)
- 四號發電機浸水ニ依リ使用不能

4. 飛行科
船射出機後部毀損軌條變形

ハ) 機關

- (1) 航空魚雷ノ命中ニ依リ右舷後機室及右舷巡航タービン室灌水各室使用不能
- (2) 右舷用機室注油裝置海水浸入同室主機械使用不能
- (3) 緊急傾斜復原ノ為ニ五號室注水ノ八號室及同室内諸裝置使用不能
- (4) 洋面海軍工作部洋ニ船渠ニ入渠排水後ニ於テ此狀況別紙ノ通

(20)

do

人員

戦死者 (何レモ航空魚雷命中)

等級	氏名	傷痕程度	等級	氏名	備考
中尉	高田 林	先任機銃長 船後機室	二機曹	有村 正克	船後機室
兵曹長	佐藤 清八	機銃長 機銃室	機銃長	水正 信	船後機室
二曹	木村 智		同	吳 彦尚	
同	安藤 彌惣	船後部機銃	同	阿部 敏夫	
水長	浅田 興助		同	岡村 秀義	
同	重田 嘉祐四郎	船後部機銃	一機曹	中村 金藏	船後部機銃
一機曹	國武 武人		同	林 隆三郎	
同	田中 道雄		一機	田中 元義	
同	宮田 邦夫	船後機室	同	森内 忠孝	
同	中尾 俊一		同	矢野 幹雄	船後機室
同	川崎 竹治		同	高橋 孝丸	
同	中村 兵男		同	青山 惣	
同	林田 金二郎				

戦傷者 (何レモ航空魚雷命中)

負傷 氏名 備考

六我ガ兵力ノ現状

左第六七助骨單純骨折	重	傷水	長月侯人助
右前膊打撲傷	輕	傷水	三好繁太郎
腰部打撲傷右下頸部挫創	同	水	伊澤久天
右舷後部單裝機銃			

左記以外戰鬪ニ支障ナシ (船体關係前述ノ通)

一砲戰關係

主砲方位盤防震裝置被雷ノ爲破損十五節以下ニ至リ速力ニテハ震動多クシテ照準不能十四節以下ニ至リハ震動相當アルニ差當リ戰鬪ニ支障ナシ尚爆風ヨリ前記被害項中ノ十一番聯裝機銃及十三番單裝機銃使用不能損耗兵器及消耗兵器列表ノ通

二機關關係

機關トシテハ舵三軸運轉ニテ二十五節出シ得ルモ船体被害ヨリ長時間實速十四節以六保安ヲ考慮ヲ要ス

三飛行機關關係

一號機二十五日夜未歸還行方不明

七功績

特記スベキモノナシ

(20)

du

ハ参考

一戰訓

一一般關係

戰術行動能力(警戒警戒)増進、爲速ニ劃期的対策ヲ講ズルヲ要ス
 潜水艦、航空機、活躍スル現今ニ於テハ昔日ノ如ク所謂戰術行動ト戰術行
 動ヲ截然ト区分スルト能ハザルノミナラス極言スルハ航海ト通シ不斷ニ戰術行
 動ナリトモ断定スルヲ得、而シテ從來ノ被害狀況ニ鑑ルモ所謂戰術行動中ニ
 於テ生起セルモ大部ニ多ク此ノ傾向ノ更ニ顯著化セトスルハ之ヲ警戒警
 戒ノ重要性ヲ求ムルト共ニ他方艦隊ニ於ケル之等能力ノ不足ヲ如實ニ
 示スモノナリ、然レニ今日尚艦隊戰術ノ旧思想ニ固着シ諸般ノ技術
 科ニミミ終始シツツアルハ再考ノ要アリ、須ク艦内編成諸制度教育訓
 練諸兵器等諸般ニ亘リ戰術行動能力増進ニ一大改善ヲ加フルヲ要ス

二砲術關係

一戰術關係始前ノ警戒或ハ並ニ戰術ノ狀況
 〇八一〇mm四機、〇八四五mm三機、何レモ三、五〇〇米以上ノ大遠距離高々度ニ觸
 接ス、當時序ヲ五機敵序列ニシテ本艦ハ遊撃部隊中ノ右先頭ニ占位
 シ速力十八節、艦内警戒隊ニ配備シテ航行中、〇三三羽撃、次々長門
 夫々一三〇度方向ニ敵編隊ヲ發見、間を無ク前記編隊ヲ發見シ砲撃ヲ

開始敵ハ視認極メ困難トシ大陽方向ニ高速近迫セル海發見容易
 ナク間接ヲ入ル機銃射撃ヲ開始セシムル距離ニ於テ主砲高角
 砲ノ威力ヲ充分ニ發揚シ得ルニ至ラズニ至ル後部ニ敵艦空魚雷一本命中
 之ヲ為主砲後部砲群動力停止主砲ニ番砲塔揚架機故障ハ被雷時激動見
 ルル外各部戰闘ヲ繼續ス一〇三三敵機射距離外ニ避退ニ砲臺ヲ止ム
 一三〇六八〇度方向ニ敵艦十二機一三二四一三〇度方向ニ雷轟機四機ヲ發見
 何モ高角砲砲臺ヲ砲臺擊退ス
 此ノ間主砲砲台關係員ハ應急作業ニ從事中ニテ射撃スルニ至ラス
 一三〇五四〇約三機ヲ三三〇度方向ニ發見主砲最大射程附近ノ射距離ヨ
 リ射撃開始シテ撃退ス

(2) 對空戰闘所見
 今回ノ戰闘ニ於テ体験セル各種所見ハ從來ノ對空戰闘所見ト殆んど
 同一ノモノ多キヲ以テ之ヲ省略シ殊ニ新シキモノノ記述ス但シ從
 來ノ對空戰闘所見ハ極メ重要ナルモノ多キヲ以テ速ニ之ノ具體的
 ノ實現化ヲ要ス

(A) 敵機ノ採リニ攻撃法
 昭和十一年ノ中期以降ハ敵機動部隊ノ殆んど艦隊一息張りノ攻撃法
 ヲ採用シ獨々雷擊機ヲ使用セシトアリシモ其ノ攻撃法ハ極メ未熟

...

ナリ然ニ
今回ノ改善法ハ巧妙ナル艦爆雷雷機ノ共同改善ニシテ其ノ戦闘
技術ニ於テ遙ニ進歩セルノ感アリ尚今回ハアテ號作戦當時ノ改善法
ト異リ或程度ノ集團改善ヲセリ

(B) 一般所見

(i) 砲戰指揮ヲ射雷指揮關係

(i) 太陽方向ヨリ未發艦ヲ敵艦ヲ速ニ發見シ得ルルハ射雷ヲ講スルヲ要ス
今回ノ戰鬥ニ於テ敵觸接機ハ早期ニ發見セシモ太陽方向ヨリ殺到セシ觸接
ハ各艦ヨリ若干ノ差アリモ一般ニ發見速レ立達レノ義アリ

太陽方向ヨリ極メテ高速力ヲ以テ近迫スル敵艦ノ視認發見ハ極メテ困
難ニシテ之ニ對處スル為有動トレ兵器施設配員ノ戰術的準備等諸般ニ
真リ速ニ對策ヲ講ズルヲ要ス

(ii) 近迫セル射雷目標ニ對シテハ重大ナル目標ニ非ザル限り主砲射雷ハ
制限スルヲ有利ト認ム

前部中部機銃群並ニ高射器ハ主砲砲煙ヨリ妨害ヲ受ケ目標視
認捕捉ニ困難ヲ來スベトアリ

(iii) 敵艦ノ未發艦ヲ予期セラルル場合早期ニ増速スルヲ要ス 中部機
銃後部機銃群ハ増速時ノ煤煙ニ依リ目標ノ視認ヲ妨害サルベト多シ

(vi) 現配備機銃ハ速ニ合理的配備ニ改裝スルヲ要ス

(23)

從來ノ戰訓所見ニ毎回強調セラレシ如ク機銃群指揮ハ極メテ重要ナルモノナルモ現在ノ如ク多量ノ機銃ヲ只此積リ利用シテ分散的ニ増備セラルル現状ニテハ之ガ統一指揮ハ極メテ困難ナルノミナラス安易戰ニ於テハ殆ド不可能ナリ

(乙) 教育訓練關係

(i) 射施照準訓練ハ効果大ナリ但シ咄嗟急ヲ要スル射高ニ於テ照準之板ハ花ノ着意必要アリ 本艦ニ於テ縮射彈射量裝置莫的機模型機等ヲ使用シ照準法ヲ演練モ爲射彈ノ散布極メテ小トナリタルモ數回ニ於テ照準之向流ニ射高開始稍違レタルモノアリ

(ii) 銃尾員ニ對シテハ裝填訓練最モ重要ニシテ徹底的ニ行ハラザルニ及バズ 數分間ノ歇間ヲ銃側ハ打散リ埋メリ艦ノ動搖傾斜大ナル時十五發入彈倉ヲ迅速確實ニ裝填スルハ容易ノ業ニ非ズ 手素ヨリ 實彈倉ノ同重量ノモノヲ用ニ應急彈藥室ヨリ取出スル動作ヲ徹底的ニ訓練シテ要ス 本艦ニ於テ補充兵ヲ以テ銃尾員ヲ編成セルニ射擊速度ノ發揮ニ大ニ支障アリ

(丙) 配員關係

(i) 砲火指向上機銃群指揮官ハ總射ニ必要ニシテ且一基毎ニ指揮官ヲ配

スルヲ要ス環型照準器ヲ有スル銃ニ於テ諸元調定ノ要ナキ銃員ヲ指揮シ
 ツ連続射撃方向ヲ來襲スル多數機ニ對シ有効ナル砲火指向ヲスル至難ナリ
 故ニ略同ニ射界ヲ有シ同一甲板上ニ並置セラレル限リニ銃以上ヲ統一指揮ス
 ルニ極メテ困難ニシテ更ニ相當遠隔セル多數ノ機銃ヲ統制スルニ不可能ナリ

(iii) 高角砲機銃關係ハ配員ニ關シ一考ノ要アリ
 現在高角砲ニ於テ四番砲手ハ半数ハ配員ナシ急連機銃増備ニ伴フ
 増員ナラ他分隊ヲ出シ得ル最大限度ノ乘務員ヲ以テ之ニ充ツルモ尚各
 聯裝機銃ノニ番銃手ハ名宛欠員ノ狀況ナリ

射撃速度ヲ極度ニ要スルニ對シ兵器ニ於テ極メテ大ナル支障アリ
 尚機銃ノ定員單裝ニ名ニ聯裝六名ニ聯裝七名ニ充テハ充分ノ威力ヲ
 發揮スルニ不可能ニシテ最小限度各一名ノ増員ヲ要ス

本艦ニ於テハ銃尾員ハ過半数ハ老年ノ補充兵ニシテ僅力數分間致關
 ナリモ若年兵ノ就キ居ル銃ニ比シ射撃速度約半減スルモナリ況ニヤ
 銃尾員ノ欠員アルニ於テハ殆ド機銃ノ威力發揮出來ズト言フモ過
 言ニ非ス銃尾員ハ最モ氣力体力旺盛ニシテ機敏ナル判断處置ヲ得
 ル者ヲ配員スルニ絶対ニ必要トス

(d) 兵器施設ノ改善ニ關スル意見

(i) 今次比島沖海戰ニ於テル所ノ對空戰鬥ノ效果並ニ現在迄ニ參加セル

(14)

数量、射空戦闘ノ成果ヨリ判断スルニ現有射空兵器各ヲ以テシテハ
 之ヲ如何程増進シテ如何ニ教育訓練ノ努力ヲモトモ其ノ到達スル處ノ
 射空實力ハ限界アリ
 抑モ現有射空射撃兵器ノ性能ハ主砲、高角砲、機銃共ニ極メテ貧
 弱ニテ現下ノ複雑困難ニシテ熾烈ナル射空戦闘ニ通過スルモノ非ズ
 即チ三五花機銃ハ其ノ射程過少ナル為ニ迫撃撃スル敵機ニ對シ
 テハ僅力ニ撃テ乃至ニ撃テ射撃修正ノ餘祐ナク射撃ヲ中セズル狀
 況ニシテ漸ク射撃ノ効果ヲ期待シ得ル巨離附近ニ到リテハ既ニ敵
 機ハ射撃ニ突入シ改撃ヲ了セル狀況ナリ
 更ニ此ノ間連續ヒテ目標変更、照準具ノ撰定変更ノ針の速ノ決
 定変更ハ寸秒ヲ爭フヲ以テ合理的正確ナル判定ハ殆シト不可能ニテ
 更ニ敵機ノ避弾運動、自艦ノ回避運動、主砲、高角砲、機銃相互ノ
 發砲音、發砲煙ノ防壁ノ影響音ヲ考慮スルトキハ合理的ナル射撃
 指揮、正確ナル測的照準發射ハ出来ルモノニ非ズ
 射撃ノ大部ガ集束ニテ偏位セルモノ多キモ亦此ハ得ザルモノナリ
 高角砲ニ示射經過方ニシテ漸ク射撃効果ヲ期待シ得ルモノナリ
 射巨離トナル頃ニハ既ニ敵機ノ編隊ヲ解キ突撃ノ隊形ニ変更セシトキニ
 シテ更ニ此ノ頃より自艦ノ複雑ナル回避運動トナリ之ガ存ニ殆ト高角砲

ノ射撃効果ヲ期待シ得ラルニ至ルモノナリ

加之入り亂レテ近且突入スル頃ハ機銃ノ項目ニ述ベシト同様ノ状況

トナリ正確ナル測的照準發射合理的一射撃指揮ハ殆ド不可能トナリ

高射器ハ其ノ用ヲ爲ガレシニ至レ場合多クシテ且此間ニ於ケル高角

砲機銃ノ相互發砲音發砲煙ノ防害ヲ考慮スルトキハ射撃ノ効果

ノ期待ハ極メテ無理ナルモノアリ

又高々度爆撃機(六〇〇米以上)ニ對シテハ爆撃前ニ之ヲ砲毒阻止シテ

殆ド不可能ニシテ徒ニ敵機ノ跳梁ニ任セルノ現状ニ在リ

漸クB2Fノ出現頻繁トナリツツアル現状ニ鑑ミ誠ニ度心ニ堪ユクモノナリ

連ニ現有兵器ニ對シ根本的ノ檢討ヲ加ヘルト共ニ更ニ舊來ノ思想型

式ノ拘泥スルニトナク革新的ナル新兵器ノ出現ノ要急ナルモノナリ先ツ

參考) 追ニ現有兵器性能改善ニ對スル一案ヲ述ブレバ

一機銃

ハニ十五機銃

ハ射撃修正ノ餘裕ヲアラセルト共ニ敵機ノ射撃突入前ニ射撃効

果ノ最大ヲ發揮セシム即チ三〇〇米乃至四〇〇米以前ニ之ヲ撃退阻止ス

ルノ要アリ

(二) 測的並ニ照準發射ノ困難ヲ補フ爲ニ射彈ノ集束(上下ニ〇米左

(39)

右四〇米)ヲ構成シ公算的ニ命中セシムルノ要アリ

尚射彈集束ヲ濃密ナラシムル為ニ發射速度ヲ大ナラシムルノ要アリ

(三) 彈丸ニ強力ナル燒夷性ヲ有セシメ翼端等ヲ磨擦スルニテ炎を燃

(四) 遠距離ニ於ケル曳跟指導ヲ可能ナル如ク強力曳跟ヲ使用シ更ニ二〇

〇米毎ニ変色スル曳跟ヲ使用ス

(五) 機銃ノ要目

最大有効射程 六〇〇米

初速 二〇〇〇米以上

五聯裝(銃身裝飾ハ〇〇〇ノ脊背式)ニ基ニテ從動照準裝置ヲ附シ之ヲ

一群トナス

(四) 四十兆程度ノ大口徑機銃

(一) 現有對空射擊兵器ノ缺欠ハ二〇〇〇米乃至三〇〇〇米ノ中距離ニ於

ケル射撃能力ノ貧弱ニ在リ高角砲ノ能力ハ前進セル如ク凡スル條件ニ

拘束サレ其ノ威力發揮出來ザルニ鑑ミ敵機ハ此ノ中間距離ヲ恣

ニト飛翔シ突撃ヲシ來ルモノナリ

從ッテ中距離ニ於テ敵機ガ突撃隊形ニ変移セントスル前後並ニ変

移直后猛烈ナル射彈ノ集中砲火ヲ以テ之ヲ阻止セバ敵ニ與フル精神

的効果ハ極メテ甚大ニシテ半面我ハ余裕ヲ以テ正確ナル射彈ヲ發

正並ニ射撃指導可能ナルガ故其ノ射撃効果ハ極メテ大ナルモナリト認メ
之ガ為ニ大口径機銃ノ裝備ハ目下ノ急務ナリ

(三) 大口径機銃要目

最大有効射程 一〇〇〇米 發射速度一分間一五〇發

ニ聯裝一基ヲ以テ一群トシ之ニ測的兵器(測巨儀ヲ包含ス)ヲ附ス

彈丸ハ時限信管ヲ付トシ彈子ハ「エレクトロニ」性ノ強力ナル燒夷性ヲ有セシム

(四) ロケット砲

「五」機銃ノ代用ニセバ極メテ有効ナリト認ムルモ現用モノニテハ不可ナリ

最大有効射程 六〇〇米以上ニシテ發射速度大ニ非サ六艦船用トシテ不適

但シ対空射撃兵器トシテハ最モ革新的ニシテ理想ニ近キモノナルヲ以テ更ニ

急速改善ノ要アリ

二 高角砲

(一) 高角砲ノ射撃効果ヲ期待センシハ

敵機ノ突撃ヲ変移前ノ縮減群ニ対シ先分ナル巨艦ノ餘祐ヲ以テ

テ數分間有効ナル射撃可能ナルト

(二) 自艦ノ回避運動開始前ニ有利ナル射撃平易ナル運動ヲ數

分間砲力ノ全力ヲ發揮シ得ルニト

(三) 敵機ノ我が機銃射撃内ニ突入前數分間射撃指揮ノ万全ヲ

期シ最大威力ヲ發揮シ得ルコト

(機械射撃セバ之ガ発砲音ニ防害セラレ射撃指揮ハ困難トシ鑑之)

(四) 高高度爆撃機ニ対シテハ爆弾投下前數分間有効ナル射撃可能ナルト

(四) 右ノ要望ニ鑑ミ高角砲ノ要目トシテハ

最大射程 二〇〇〇米以上 発射速度 毎分二五發以上

運動極メテ輕快ナルコト

三式彈ヲ專用シ三式彈ノ有効帶ヲ更ニ増大スルコト

八米ニ重「ステレオ」測巨儀ヲ有シ情況ニ依リ遠近觀測ヲ可能ナラシム

三 主 砲

現用主砲ノ各部ノ枚構ヲ根本的ニ改革シ対空射撃兼水上射撃兩

トヲ使用シ大遠距離ニ於テ射撃精度ヲ向上セシメ就中大型機編隊ニ

對テ射撃能力ヲ一段ト増大セシムル要アリト認ム

尙大遠距離射撃ハ時間ノ餘裕アルヲ以テ遠近觀測可能ナル如ク「ステレオ

式觀測鏡」裝備ヲ要スルモノナリ

四 電探精度向上

対空電探測の精度ヲ向上セシメ主砲高角砲機械銃ハ測巨方向角ニ其ノ

終、追尾セバ有効ナル射撃可能ナル如ク研究改善ノ要アリ

(iii) 機銃専用強力方向盤設置ノ要アリ 尚發信器ハ防空指揮所ニ置キ度
 信器ハ銃側旋回手前面ニ備フルコト認メ 戦闘中重大目標ニ射シ急連指
 示銃ヲ指向スル要アルハ常ニ痛感スル所也 現施設ヲ以テシテハ極ク困難
 ナリ

(iii) 機銃銃尾員裝填訓練上裝填銃裝備ノ要アリ
 銃尾員ノ裝填訓練ハ重要事ナル之ヲモ具銃ヲ行ハハ必ス銃ヲ毀損シ
 戦闘ニ支障ヲ來スモノナリ

(vi) 各種電源ハ兩舷ニ配電スルヲ要ス
 被害ニ依リ祐高角砲動カ及ビ揚彈藥機使用不能トナリ 應急電線
 ニテ爾後戦闘繼續セシモ迅速ニ轉換ハ不可能ナリキ

(c) 戦闘準備ニ關シ

(i) 手入油ハ銃側砲側ニ多量準備スルヲ要ス

打針、敵機、尾槍等ノ折損ハ給油不足ニ依リト多シ 僅カノ餘裕ニテ

モ戦闘中時機ヲ見テ各部ニ注油スベキナリ

(iii) 應急用電線ハ豫メ準備シ置クヲ要ス

祐電源停止セルモ應急電線ヲ引キテ之相當ノ時間ヲ與シ又數次ノ

被害ニ即應シ得ザルモノト思ハス

(27)

(八) 水雷關係

(1) 對潛關係

(A) 今次作戰、初頭ニ於テ敵潛ノ爲艦隊トシテ相續重大ト被害ヲ受ケタルハ遺憾ニ堪ヒズ

出撃時機航路選定、對潛哨戒機ノ配備等檢討ヲ要スル点ナリトハ認
ムル之ガ拘從ヲ受ケ易キ艦隊トシテハ劃期的ナル對潛兵器ノ出現
ヲ望ミテ已マズ、現在輸送方面ニ於テ受ケツアル重大損害ニ鑑ミ、
飛行機、電波、音波關係ヲ含ム強力ナル對潛對策研究機關ノ設
立ハ目下ノ最緊急事ト思ヘラス

(B) 水中測的ハ対象ノ影響ヲ受ケルト極メラ大ナルモ之ガ實驗研究ノ
資料皆無ノ狀況ナリ、其ノ一部分ノミニテモ速ニ之ヲ作戦部ニ配布披露
ヲ要ス

(C) 實艦的訓練ヲ一層増加ノ要アリ

今次作戦前ニテ月ヲ通シ實艦的訓練ヲ實施セルハ各艦共一時間程
度ノ訓練數回ニシテ凡ソ狀況ニ對シテ自信ヲ得ルニ至ラス、艦隊訓練地
護衛艦艇集合地ニハ訓練專用ノ潜水艦ヲ常置スルノ要アリ

(D) 聽音器能力向上策トシテ增幅器電源ニ艦内ニ次電池電源ヲ利用
セル處、雜音少々良好ナル成果ヲ得タリ

(2) 發射關係

(1) 爾後水上戰闘ヲ予期セラルル場合ノ対空戰闘ニ於テハ航空魚雷命中及至近彈ニ依ル爆風水柱彈片ノ被害ヲ考慮シ發射管ヲ旋回セザルヲ有利ト認ム

本艦ニ於テハ發射管直下ニ魚雷命中ニ飛外突出物ハ吹飛ハサレルヲ旋回ニ居テハ發射管及魚雷ニ全ク被害ナキヲ得ル 尚此ノ場合發射管附近ノ防護ヲ特ニ強化スベキハ勿論ナリ

(二) 防禦關係

(1) 一方龍型巡洋艦ノ急速注排水区劃ハ更ニ新設擴充ノ要アリ

航空魚雷一本ノ命中ニ對シ本艦型巡洋艦ニ於テハ船体中部附近ハ約千乃至千五百ト、浸水ハ免レズ之ガ爲ニ此ノ傾斜ハ十二乃至十五度ニ達シ現在ノ急速注排水区劃ニ注水ニテハ燒石ニ水ハ感アリ艦船被害時沈没ハ狀況ヲ見ルニ予備浮力無キカ爲ニ非ス復元力ヲ失フガ爲ニ其因スレトト認メラルルニ付急速注排水区劃トテハ飛側ハルチヲ使用シ得ル如ク改造ヲ要ス 尚右急速注排水区劃ノ建設ハ緊急注排水区劃ノ一部ニ急速注水スル 胸算アルヲ要ス

(2) 注排水弁ハ常ニ兎備ハ状態ニテラシムルヲ要ス

傾斜復原ニ當リ注水弁ハ作動良好ニテテ目的ヲ達シ得ルニテ排水弁點

海軍

氣弁ハ作動不良ニテ反對飛破害ノ場合排水困難ナリト予想セシ
(3) 給排氣弁ヲ上部区劃ヨリモ開閉可能ト如ク改造ノ要アリ

下甲板以下ニシテ戰闘中配員アル区劃ノ給排氣管ノ弁ニ就キテハ現在該
区劃ノミニ弁ヲ有スル為同区劃ニ直接被害ヲ受ケル場合閉放ノ儘ナリ
上部区劃ニ於テ該管破損セバ該区劃ニ浸水ノ及ブラ以テ上部区劃ヨリ
モ開閉シ得ル如ク改装ノ要アリ

(4) 艇外排水弁ハ常ニ完備ノ状態ニテラシムル要アリ
廁流場浴室等ノ艇外排水弁ハ當然完備ノ状態ニテラシムル要アリ
ハ水線以上ニルヲ以テ傾斜セ場合ヲ考慮セズ能クニテ弁ヲ入ラシムル勝ナリ
艇ノ傾斜セ場合ハ必ズ該区劃ノ水面下ニ来ル事ヲ乘員一般ニ強調認
識セシムル要アリ

(5) 不要孔ノ閉塞ハ徹底利ニ實施シ置ク要アリ
不要孔閉塞ニ關シハ再ニ聲ヲ高クシテ實施シ若シト完全ナラト自他共ニ
許シ得ル程度ナリモ下甲板以下ニ於テハ未ダ十分ナク浸水排除ニ當リテ
發見シテ不要孔多クアリ右不要孔ノ主トシテ予備品補用品取付ホルト
又同取付換ハトナリシ為予備品ノ衰下リ居ル不要孔多クシ

(6) 妙高型ニ於テ後部高電泄室ハ後部發電機室ノ反對飛ナル如ク改造ノ
要アリ 現在ノ後部高電泄室ハ後部發電機室ノ後部隣接区劃ニアリ

發電機室破孔浸水ノ後後部蓄電池室ニ浸水被及シ蓄電池本來ノ使命ヲ果シ得リキ

(7) 妙高型蒸氣發電機ハ一室ニニ基裝備シテ前後部左右一室一基光トナスカ然ラザレバ内火發電機ヲ前後部ニ各一基光増備ノ要アリ
後發電室被害ニ依リ發電機ニ基ラ一時ニ失ヒテ災ニ次被害ヲ考慮セバ甚ダ寒心ニ耐ヘス

(8) 重要動力電源標示灯ハ常ニ点灯試験ヲサシ置ク要アリ

被害時飛取機電源標示灯消滅シ居ルニ爲電路被害ト誤認遠隔ノ地ヨリ應急線ヲ敷設シ居他ノ一刻ヲ争フ應急作業ヲ遷延セシメ

(9) 被害箇所又ハ浸水箇所通過ノ電路ハ必ズモ使用不能トハ限ラズ試験後異狀ヲ認メガハ使用差支ナシ
航後機室浸水ニ對シ附近通過ノ一

五號發電機管別電路直通電話前部蓄電池充電用電路ハ使用ニ得タリ

(10) 早期戦闘準備ノ要アリ

各部共黎明時ヨリ戦闘服裝戦闘配置ヲ整ヘ殆ンド配置ニ就キタル儘ノ状態ナリシ爲 配置ニ就テヨリ五分後ニシテ被害ヲ蒙リタルモ此ニ周章ナク終始沈着ニ處置シ得タリ

III 従来ノ防禦ノ訓練ハ實戰ニ極メテ適切ニシテ反復訓練ノ要アリ

091

四

本被害ニ當テ片一次應急處置ハ全ク平素ノ訓練通順調ニ終過セリ
機開關係

(1) 被害時罐水減少防止ノ見地ヨリ前部機械室ヨリ後部機械室ニ至ル補
助排出管系ニ兩室ニテ開閉シ得ル如ク遮断弁新設ノ要アリ。此高型ノ補
助排出管ハ前後機室直通ニシテ船後機室蒸氣噴出浸水時特ニ満
水トナリ在室員ハ補助排出弁ヲ閉鎖スルト能ハズ。戦死セリ。之ガ為船
前機室ノ補助排氣ハ被害室ニ逃出シ罐水急激ニ減少シ前機室ニ於テ
補助排出管ニ盲板ヲ施シ罐水ノ減少ヲ防止セリ。

(2) 被害向浪上他室ニ至ル注油送管並ニ戻管ハ配油弁戻弁ヲ付スル要
今回ノ被害係リ船巡航タービシ室満水トナリ巡航室ノ海水ハ巡航タービシ軸受
及同室裝備ノ船外軸主推力軸受注油送管ヨリ船前機室油溜シタリ
ニ流入シ同油溜シタリヨリ水頭テ前機室主タービシ軸受及減速車室内ニ海
水浸入噴出セリ。

(3) 油溜シタリノ兩舷交通弁ハ堰弁ヲ普通通ネガ締弁トスル要アリ
右舷後機室浸水シ中央隔壁少シク膨出セシ為中央隔壁ニテ兩側ニ位置スル油
溜シタリ兩舷交通弁(堰弁)取付部ニ軽度ノ変形ラシシト本弁ハ左舷機
室ニアリ右舷側ノ水压弁内方ニ加ヘシ為漏洩セシ高弁ハ試験圧力0.5MPa
ヲ弁ヨリ五米以上ノ浸水ニ堪ヘ得ス。今回ノ浸水ハ同弁中心ヨリ五五米進浸水ス

(4) 被害時ハ一般ニ電灯消滅シ件々モナレバ極力應急照明灯ノ活用ニ留
意スルト共ニ被害探知員等ニ携帯電灯ヲ所持セシムル要アリ

(5) 他室ニ通ズル給排氣通風路ハ遮断并ニ裝備スルヲ要ス
右舷前機室排氣通風路ト巡航室排氣通風路ハ交通シ遮断并ニ裝
備ナカリシ為巡航室満水ヨリ風路ヲ右舷前機室ニ浸水ヲ因ニ風路ハ
平均吃水線上約〇.五米ノ處ニ交通シアリモ艦ノ傾斜吃水ノ増加並ニ艦
速ニモ流圧ニテ浸水セリ

(6) 眞水タンクハ前後部ニ裝備シ眞水ポンプハ前後部ニ一台先裝備
スル要アリ 本艦ノ眞水タンクハ後部ノミニアリ 今回ノ被害ニシテ眞水
タンク並ニ同ポンプ共ニ使用不能トナレリ

(一) 穹眞 ナシ

(三) 天氣圖 略

(四)

(50)
(51)

三
四

do

(別表)

一 損耗兵器

九六式三五花機銃尾栓 五個

同 右 打針 四八個

二 消耗彈藥

品名	戰前保有数	消耗数	残額
五十口径二号三種三式通常彈	七四	二五	四九
同 零式通常彈	三六六	一六	三五〇
四十口径十二種七高角砲通常彈藥包	一〇四四	一〇一	九四三
同 着込通常彈藥包	三五三	八	三四五
同 三式通常彈藥包	二二	二二	〇
九六式三五花機銃 通常彈藥包	四六〇	三三九	一二一
同 曳跟通常彈藥包	一八四〇	一一三三	七〇七
九五式爆雷 同 改二	七	二	五

一 毀損

別紙

第百一海軍工作部第三船渠に入渠排水後外観ヲ検査スルニ次也シ

一 船体 (機関関係)

(1) 右舷後機室中央舷側バルジ及防禦区劃ニ大破孔ヲ生ジ水線下

ニ五米附近防禦甲板接合部ニ最大幅五五〇米 船舷方向ニ長廿六米

並ニ二三八番ヒール附近防禦甲板接合部ヨリ上方ニ縦ニ一五米ノ

亀裂ヲ生ス (應急遮防修理施行)

(2) 右舷後機室防禦甲板一枚機室單底下ノ銲接部同室中央附近

ニ三〇船舷方向ニ長約三米切断 (切断部ヨリ下ニ應急遮防)

(3) 右舷外軸室舷側前部隔壁ヨリ船舷方向ニ約三米亀裂 (應急修

理ヲ補強)

(4) 舷側十七、十九、二十一番重油タンク後部

予備一番重油タンク大破

(5) 左舷後部機室中央隔壁及右舷前部機室後部隔壁ニ膨

出

(6) 右舷後機室重力タンク転倒変形

二 機関

(1) 主機機

(81)



(一) 右舷後機室内外側低圧「タ」脚切損十五、二十程内側ニ偏倚
 (二) 右舷後機室内外側高圧「タ」脚切損外側高圧「タ」約三十程内側ニ偏倚
 (三) 右舷巡航「タ」浸水セルモ機械本体異状ナシ
 (四) 減速装置

右舷後機室減速車室本体破損親齒車及内外側低圧「タ」子齒車毀損

(四) 復水装置

(一) 五號復水卷(横置)圧壞後部蓋及止檢管大破
 (二) 六號復水卷(懸垂)内側ニ傾斜懸重用支柱ニ本共切損
 (三) 五號主送水「ホ」同抽氣「ホ」内側ニ傾斜吸管変形偏平トナレ
 (四) 海水管系外側切斷ニ并内側稍偏倚シアリ

(三) 軸系

(一) 右舷外軸一番中間軸受大破ニ番中間軸受下部軸受台及主推刀軸受後部側軸受上部蓋亀裂
 (二) 右舷外軸ニ五號主復水卷本体凭掛リ軸屈曲ノ疑アリ

(ホ) 注油装置

三號油冷却卷鬆倒開閉管切斷

(ニ) 蒸氣管系

附圖

- (一) 右舷後機室外側後進「タービン」ニ至ル蒸氣管中間弁附近切損
 - (二) 同室外側高圧「タービン」ヨリ同低圧「タービン」ニ至ル蒸氣管変形
 - (三) 一號空氣圧縮ポンプニ至ル補助蒸氣管切損
 - (四) 補助排出管ニテ所屈曲(内ニ號油冷却ポンプニ至ル排出管切損)
- (1) 通風装置
 通風路破壊ニ號給氣通風電動機五號排氣通風機浸水並ニ
 中心倚倚ニテ使用不能
- (燃)

(22)